

会 議 録

会議の名称		第2回つくば市道の駅整備検討委員会
開催日時		令和8年（2026年）4月23日（木）開会 15:00 閉会 17:15
開催場所		つくば市役所コミュニティ棟1階 会議室1
事務局（担当課）		経済部立地推進課
出席者	委員	藤田 直子 委員（委員長）、神谷 大蔵 委員、 小久保 貴史 委員、梅沢 尊信 委員、梅本 舞子 委員、 飯田 勝美 委員、吉沼 正美 委員、笹本 秀一 委員、 横山 治夫 委員、平賀 由希子 委員、 芝谷 千恵子 委員、菊池 真由美 委員、櫻井 昭 委員、 櫻井 和男 委員、長嶋 良 委員、松崎 若美 委員、 松塚 直子 委員、宮本 亮 委員、柳町 哲雄 委員
	その他	【茨城県議会】 鈴木 将 議員 【茨城県土木部道路維持課】 吉岡 博之 技佐兼課長補佐（技術総括）、岡本 宴徳 主査、木村 翔太 主任
	事務局	【経済部】 中川 伸一 次長 【立地推進課】 河合 隆浩 課長、高野 智史 課長補佐、 下河邊 智也 主査、日下 優生 主任、富田 恭輔 主事 【株式会社オリエンタルコンサルタンツ】 村松 圭、中埜 智親、添田 信行、森田 なつみ、 武藤 由華、長谷澤 未来

公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	5 人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 基本理念と基本目標の案 (2) 導入機能の意見交換 (3) 今後の進め方		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会 議 次 第	1 開 会 2 報 告 3 議 事 (1) 基本理念と基本目標の案 (2) 導入機能の意見交換 (3) 今後の進め方 4 その他 5 閉 会			

<審議内容>

1 開会

事務局：それでは、定刻になりましたので、ただいまから第2回つくば市道の駅整備検討委員会を開催します。本日司会を務めさせていただきます、立地推進課 課長補佐の高野です。よろしくお願いいたします。本会議は「つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例」第3条の規定により公開となっております。傍聴人がいらっしゃいますので、あらかじめ御了承ください。まず初めに、当検討委員会委員長の藤田委員長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

藤田委員長：はい、ありがとうございます。皆様こんにちは。本日もお集まりいただきましてありがとうございます。今日はあいにく雨が降っている中お越しいただき、遠くからお越しいただいた皆さんには、「大変だったな」という気持ちよりも、つくばに来て「たくさんの意見を交えることができ、充実していたな」という気持ちでお帰りいただきたいなと思いますので、本日も皆様、前向きで積極的な御意見をたくさんいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：藤田委員長ありがとうございました。続きまして、新年度4月より委員の変更がありましたので御紹介します。恐れ入りますが御起立をお願いいたします。一般社団法人つくば観光コンベンション協会事務局長の吉沼正美様です。ありがとうございました。

ここで本日の配布資料の確認をさせていただきます。まずお手元に次第がございます。裏面が席次表となっております。資料1としてつくば市道の駅整備検討委員会名簿、資料2として、第2回につくば市道の駅整備検討

委員会資料、以上でございます。

資料の不足等ございませんでしょうか。それでは早速、次第の2報告へ移らせていただきます。

2 報告

事務局：本日の第2回検討委員会の位置づけ及び大規模事業評価制度について立地推進課長の河合から説明いたします。

はい、立地推進課長の河合です。よろしくお願いします。まず、今回第2回検討委員会の位置づけということで、本日議論していただく内容について御説明させていただきたいと思います。前回皆さんから様々な御意見をいただきまして、その御意見をもとに我々事務局採用で、基本理念と基本目標の素案を作成してきました。詳細については後ほど御説明させていただきたいと思いますが、その素案に対して皆様から色々御意見をいただいて、できれば本日はそちらの設定まで決められればと思っております。その後は、事前に皆さんに配布した導入施設のアンケート調査で出していた意見と、昨年度末の市内外問わず幅広く利用者ニーズを調査した結果を踏まえて、こういった導入施設や、導入機能があったらいいかについて、本日皆様に御議論をしていただいて、本日でそこを決めるのはなかなか難しいかもしれませんが、幅広い議論をしていただいて、話し合いができればと考えております。

続きまして、もう一点目の報告です。資料5頁を御覧ください。つくば市には大規模事業評価制度という制度がございます、こういった制度が簡単に説明すると、市が行う事業で、10億円以上の大規模な事業については外部の業界に評価をしていただいて、その事業を行うべきかどうか意見をもらう制度です。多角的に見ていただくということで、事業の必要性、妥当性、有効性、経済波及効果、また、その事業を行うことによって、どれ

ぐらい市民の利便性が向上するか、その費用感が適切かというような評価をしていただくものです。今回の事業に関しても、おそらく10億円以上の公的な事業にはなろうかと思いますので、この制度にかけていくというような流れになります。当初この基本構想の中で策定しようとしていた内容は、ある程度どういう特色の道の駅が望ましいかということまでと想定していました。大規模事業評価では、当初想定していた内容よりもかなり具体的に総事業費や、どういう施設をここに設けるとか、どういった事業手法であるかというところまである程度想定しないと、大規模事業評価に耐える内容にはならないため、当初予定していた基本構想に、そのような内容をプラスする方向で調整をしております。それにより委員会はもともと第5回までを想定していましたが、第6回もしくは7回目ぐらいまで皆さんに御協力をいただく必要がある見込みです。また、11月末でこの基本構想が終わる予定でしたが、先ほどのような業務をプラスする必要があるため、3月末の今年度いっぱい事業を続ける見込みです。その増額部分については、6月議会で、補正予算を計上するということで今調整をしており、全体の決定としては、6月の議会を経てからになります。次回第3回目の検討委員会は、本資料では6月の中旬と記載されていますが、時期を変更して、6月議会終了後の7月上旬くらいを目途に開催させていただければと思います。議会決定後、詳細なスケジュールについてはこちらから改めてお知らせさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。報告は以上になります。

3 議事 (1) 基本理念と基本目標の案

事務局：それでは議事に移らせていただきます。ここで一つお願いです。本日の会議で、御発言の際は係の者がマイクをお持ちしますので、マイクを通した御発言に御協力をお願いいたします。会議の議長はつくば市道の駅整

備検討委員会規則第4条第3項の規定により藤田委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

藤田委員長：はい、ありがとうございます。委員会規則の規定により議長を務めます。議事の進行にあたりまして、委員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。本日の検討委員会の出席状況でございますが、委員20名のうち19名の方に御出席いただいておりますので、半数に達しております。つくば市道の駅整備検討委員会規則第4条第4項の規定により、本日の会議が成立することを御報告いたします。では議事に入ります。本日の議事の進め方についてですが、皆様の自由な御意見を幅広く伺うため、基本理念・基本目標（案）の説明の後、案に対して意見をいただく前に、導入機能・施設に関する意見交換を行いたいと思います。なお、本委員会は導入機能・施設の内容を決定するものではなく、幅広く意見交換を行う場としております。その後、基本理念と基本目標の案について改めて議論を深めるという進め方いたします。それでは、議事の内容について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：7頁を御覧ください。まず、基本理念・基本目標の案について説明いたします。こちらは、第1回検討委員会で、委員の皆様に意見交換いただいた項目です。基本理念・基本目標の案を検討するにあたり、第1回検討委員会の結果に加え、つくば市の特徴、上位・関連計画、利用者ニーズ調査の結果を整理しました。そこから、道の駅に求められる役割と整備において大切にすべきキーワードを抽出し、基本理念、基本目標への落とし込みを行いました。

8頁を御覧ください。つくば市の特徴を、強み・弱み・機会・脅威の4つの観点で整理しました。強みとしては、筑波山や長閑な田園風景に代表さ

れる豊かな自然、研究学園都市としてのブランド力、首都圏からのアクセス性等が挙げられます。全国的に珍しく人口・世帯数が伸びていることや多様な人々が暮らしやすい環境も本市の強みであると言えます。一方、弱みとしては、筑波山以外への誘客ができておらず滞在時間や消費単価が伸びないことが挙げられます。機会に関しては、筑波山は比較的ライトな登山者が多いため、誘客・受入環境を整えば前後の周遊が期待されること、体験型観光やアウトドア観光の需要の高まり、地方誘客への機運醸成が挙げられます。一方で、脅威に関しては、道の駅は全国的に飽和状態にあるため、競合との差別化を図ることができなければ埋もれてしまう懸念もあります。

9頁を御覧ください。つくば市の上位計画である「つくば市未来構想」では「つながりを力に未来をつくる」をまちづくりの理念に掲げています。これを実現するためのアクションプランである「第3期つくば市戦略プラン」では、取組キーワードとして、農業の担い手の確保・育成、体験型観光や広域観光の推進、人が集まる拠点づくり、地域交流の促進、つくばの特性を活かした学びの推進、イノベーション創出や新たなチャレンジといった文言が見られます。

10頁を御覧ください。第1回検討委員会では、つくば市の道の駅だからこそ大切にしたい価値として、「筑波山」や「科学技術」、「観光利用×日常利用」、「つくばで活躍する人との交流」、「多様性の受容」等のキーワードが挙げられました。観光拠点機能に加え、特に「市民の日常利用」を重視する意見が多くあったかと思います。道の駅に期待することとして、筑波山観光や体験型観光の拠点機能、農産物の魅力発信拠点や新規就農のきっかけ作り、つくばならではの宇宙や科学を気軽に体験できる場や、歴史文化・産業等の学びの場としての活用、日常利用の重視、既存住民と移住者の交流や郷土愛を育む場、多様な人々の安心・安全な居場所となるこ

と、といった御意見を委員の皆様からいただきました。

11 頁を御覧ください。今年 2 月から 3 月にかけてアンケートを実施し、利用者ニーズ調査を行いました。総回答数は 2,290 となり、非常に高く関心を持っていただいていることがわかります。結果を見ますと、道の駅が整備されることで期待する効果としては、「地域経済の活性化」や「観光拠点」、「にぎわいの創出」、「つくば市のイメージアップ」といった回答が多くありました。一方で、不安を感じる点や懸念事項としては、「交通渋滞」が非常に多く挙げられていました。

12 頁を御覧ください。各種調査結果から、道の駅に求められる役割を整理しました。つくば市の特徴分析からは、多様な地域資源を束ねる交流・体験・発信拠点、つくばらしさ（自然、科学、農等）を体現する施設になることが求められていると考えます。上位・関連計画からは、「集う」「交わる」「広がる」機能の実装、未来志向の都市イメージと整合した施設、第 1 回検討委員会の結果からは、市民・観光客の双方に開かれた滞在場所、交流を軸に新たな価値を創出する拠点、利用者ニーズ調査の結果からは、地域経済の活性化に資する施設、つくば市のプロモーション拠点となることが求められていると考えられます。これらの整理から、整備において大切にすべきキーワードとして、出会い、つながり、交流、未来志向、体験、学び、つくばらしさ（科学技術、自然環境、国際交流、多様性等）、日常、拠点といったワードを抽出しました。

13 頁を御覧ください。ここまでの整理・キーワードを踏まえ、基本理念と基本目標を検討しました。基本目標は、観光、食農、自然・科学、教育・文化、日常利用の五つの観点で整理しました。観光の観点では「つくば観光の玄関口・交流拠点としての機能を強化する」、食農の観点では「食と農の魅力を発信し、地域農業を振興する」、自然・科学の観点では「自然と科学が共存する研究学園都市としてのブランド力を高める」、教育・文

化の観点では「多世代の学びと文化の継承・発展を支える」、日常利用の観点では「暮らしを支え、つくば市への愛着を育む」ことを基本目標に掲げています。

14 頁を御覧ください。続いて、基本理念についてです。基本理念はメインタイトルとサブタイトルで構成することとし、メインタイトルではつくば市のイメージを表現、サブタイトルで道の駅の目指す将来像や価値観を表現するA案と、いずれも道の駅のイメージを表現するB案を作成しました。基本理念にはつくば市らしさを取り入れる一方で、今後多様な道の駅の在り方が検討できるようできる限り幅広い要素を包含する理念となるよう整理しました。

15 頁を御覧ください。まず、A案は「つくばと出会う。人とつながる。未来がひらく。～筑波山の麓から、新たな価値を創造する交流拠点～」です。様々な地域資源と市民や観光客が「出会い」、人々や農業と科学、地域と地域が「つながり」、そうした出会いと交流を通じて新たな価値観や挑戦が生み出され、「未来」へつながっていく拠点となることを表現しています。未来志向のつくば市の都市イメージを取り入れつつ、観光と日常利用を両立する「拠点性」をバランスよく体现したコンセプトとなっています。

16 頁を御覧ください。続いて、B案は「未来へつながる『道の駅』～空の広さと知の深さが交差する場所～」です。メインタイトルでは研究学園都市として発展してきた未来志向の精神を表現しています。サブタイトルの「空の広さ」は筑波山麓に広がる長閑な田園風景を想起させ、「知の深さ」は様々な研究機関や大学が集積する知的資源の豊かさを想起させます。つくば市の象徴である「豊かな自然」と「知の集積」という二つの個性を体现し、それらが交わることで新たな価値を生み出す道の駅の役割を表現したコンセプトとなっています。

3 議事（2）導入機能の意見交換

事務局：17 頁を御覧ください。導入機能に関する意見交換を始めるにあたり、

1 道の駅の基本的な役割、2 つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境、3 他地域の道の駅等の取り組み（参考事例）、4 利用者ニーズを整理しました。そこから、事前に委員の皆様にご回答いただいた御意見も踏まえ、導入機能に関する意見交換を実施していきます。

18 頁を御覧ください。道の駅の基本的な役割の確認です。「道の駅」への導入機能の基本は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の三つです。これらは必須機能となります。

19 頁を御覧ください。こちらは、道の駅候補地の商圈人口を整理したものです。主に日常利用をしていただける可能性のある足元商圈として、車で 10 分、20 分商圈での居住者を算出しました。10 分商圈の人口は約 3 万人、（10 代以下と 70 代以上を除いて）最も多い年代は 60 代でした。20 分商圈の人口は約 10 万人、最も多い年代は 40 代でした。

20 頁を御覧ください。主に観光利用をしていただける可能性のある広域商圈として、車で 30 分、60 分商圈での居住者を算出しました。30 分商圈の人口は約 27 万人、60 分商圈の人口は約 235 万人、いずれも最も多い年代は 40 代でした。

21 頁を御覧ください。道の駅候補地の 20km 圏内の道の駅を地図に表示したものです。道の駅しもつま、道の駅常総、道の駅グランテラス筑西と 3 件の道の駅があります。

22 頁を御覧ください。先ほどの 3 件の道の駅の詳細です。各道の駅の説明は割愛いたしますが、これらの道の駅とは差別化していく必要があると考えています。

23 頁を御覧ください。商業施設や直売所を地図に表示したものです。20km 圏内には、多くの施設がありますが、その多くは南部に集中しています。

24 頁を御覧ください。じゃらんや田舎暮らしの本のランキング（道の駅大賞）で上位に選ばれた道の駅をピックアップしている表です。

25 頁を御覧ください。こちらが先ほどのランキング上位に選ばれた道の駅の導入機能を整理したものです。導入機能を分類するとA基本機能、B利便・滞在機能、C特色・集客機能の三つに整理できました。

26 頁を御覧ください。こちらの参考事例は、分類の一つ目のどの道の駅にも共通する基盤として存在する「A基本機能（ベース機能）」です。直売所、物産店、レストラン、情報発信、トイレなどが挙げられます。これらの機能も、基本機能とはいえ、様々な特色があり、道の駅むなかたでは、農産物コーナーに加え、水産物コーナーが充実しています。道の駅米沢では、観光コンシェルジュを配置し、米沢市内及び山形県内の情報発信基地としています。

27 頁を御覧ください。こちらの参考事例は、利用の幅を広げ、滞在機会を生む「B利便・滞在機能（付加機能）」です。ベーカリー、鮮魚店、コンビニ、温浴施設、ドッグラン、屋内遊び場等が挙げられます。道の駅川場田園プラザでは、川場産のお米やブルーベリー等を使ったパンを販売しています。道の駅まえばし赤城では、ドッグランを設置しています。

28 頁を御覧ください。こちらの参考事例は、その道の駅ならではの強み・来訪の目的になる「C特色・集客機能（コンセプト機能）」です。地ビール工房、納豆工場、バナナ農場、いちごハウス等が挙げられます。道の駅富士川楽座では、本格的なプラネタリウムが体感できます。道の駅伊東マリンタウンでは、伊東の海を満喫するクルージングで船内から海中を泳ぐきれいな魚を観察できます。

29 頁を御覧ください。こちらは、第1回検討委員会でアドバイザーの方に御紹介いただいたVISONです。広大な敷地に町のように建物が立地しており、主な導入機能としては、飲食機能、BBQ場、料理の道具のミュ

ージアム、宿泊施設、温浴施設、屋内遊び場等があります。

30 頁を御覧ください。こちらは、第 1 回検討委員会でアドバイザーの方に御紹介いただいた魚沼の里です。建物が点在し、社員食堂や蕎麦屋等の飲食機能、雪室や蒸留所等の体験施設、リカーショップ等の販売施設があります。

31 頁を御覧ください。こちらは、利用者ニーズを整理したものです。道の駅に導入してほしい施設について、分野別にみると、「食」ではフードコートや地産地消店、「物販」では農産物直売所や物産店、「レジャー」では温浴や足湯、「イベント・交流・体験」ではイベントスペースや多目的ルームといった回答が多くありました。

32 頁を御覧ください。「子ども向け施設」では屋外遊び場や屋内遊び場、「宿泊・駐車場」では EV 充電やキャンプ場、「防犯・防災・情報発信」では避難所や交番（派出所）といった回答が多くありました。以上で説明を終わります。

藤田委員長：はい、ありがとうございました。大変よくまとめていただいているので、拝見しながら卒論になりそうだなと思いました。特に一般的な、全国的な傾向を踏まえながら、例えば 19 頁や 20 頁の商圈分析のようにつくばの特徴も整理してくださっていました。同心円上に書いてじっくりとした分析をしてしまうことが多い中で、きちんと移動距離に対する時間というものを反映させた形で結果が示されているので、実態に即した分析結果を皆様にお示しできていると言えます。全国の優良事例を見ていただきながら、31 頁のつくば市民を対象に行われたアンケート結果からつくば市民がどういう道の駅を期待しているのかを推察することができます。この市民ニーズや、委員の皆様から第 1 回目にいただいた御意見、そして第 2 回に関しても事前にいただいた御意見を踏まえて導き出した基本理念と基

本目標の案というものが15頁、16頁に当たります。今回はどういう基本理念・基本目標にしていけばいいか、最終的にはここを決めていければというところですね。そこを本日のゴールにしながら、まずは議事（2）の導入機能に関する意見交換を行っていきたいと思います。こちら、資料が皆様にお示しできるものがありますので、見ていただければと思います。

事務局：こちらは委員の皆さまには配布していない資料になります。

藤田委員長：こちらは配布資料には入っておりませんので、前の画面を見ながら議論をしていきたいです。まず導入機能に関しては、五つの項目・役割に分けて、観光、食農、自然・科学、教育・文化、日常利用ということで、前回までの分析からこのような役割を分けることができました。そしてそれぞれの基本目標というところをここに示してございます。では、まず観光のところから見ていきましょう。観光の基本目標としては、つくば観光の玄関口、交流拠点としての機能を強化するという基本目標を掲げており、そこに入れる機能、どういうものを具体的に入れていくのか御意見をいただいております。今投影している資料には、これがいいのではないかと導入機能と理由も一緒に書いてあります。もし委員の中で、これは自分が書いたもので補足説明をしたいという方がいらっしゃいましたら、挙手をいただければと思いますが、いかがでしょうか。パークアンドライドの御意見が多いですね。パークアンドライドを導入機能に入れていくといいという御意見いただいておりますが、こちらについて補足がありましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。急に当ててしまいますが、パークアンドライドの御意見をいただいた神谷委員、もし補足がございましたら、御意見いただければ幸いです。

神谷委員：ありがとうございます。第1回目でもお話をさせていただいたので、やはり年間のある一定の日程、一定の時間に筑波山観光における県道つくば笠間線の慢性的な渋滞が発生しています。その渋滞は、ただ車が多いから渋滞するのではなく、筑波山登山で山頂の女体山を目指すにはかなり時間がかかるため、滞在時間が長いという背景もあります。また、県道上の一般の自家用車の流入を少しでも減らすことで、筑波山観光客の利便性が上がると思います。あれから様々道の駅を見て歩いているところですが、パークアンドライドと言っても、この道の駅に車を停めなくてはいけない理由がまずないと始まりません。ただ、「ここに停めてください。」ではなく、そこに車を停めたらどういうメリットが発生するのか、またそこに停めることでどういった楽しみがあるのか、というところが重要です。もちろんこの施設は前々から筑波山麓周辺に必要な施設だということは訴え続けてきたのですが、具体的に何を主として、このパークアンドライドの効果を大きく発生させるかというところが今回の目的です。パークアンドライドは一つの手段であり、決して道の駅の集客に対して、これがあるからプラスになるということではないので、あくまでも施設の有益さと、筑波山の観光を円滑にする拠点として意見を記載しました。

藤田委員長：ありがとうございます。筑波山のシーズンは、非常に混み合っただけで全く動けなくなるという毎年発生している課題ですね。それは観光客だけでなく、地元の皆さんにとってずっとある生活へのストレスで、新しく道の駅ができたからそれが解消され、「道の駅ができてよかったね」と、受け入れる気持ちが強くなるためにも、あの場所に新しく作る道の駅にパークアンドライドの考え方を導入して実行するのは意味が深いのではないかと御意見伺いながら思いました。ありがとうございます。長嶋委員お願いいたします。

長嶋委員：私もパークアンドライドは賛成したいです。神谷委員がおっしゃるように、地方から出てくる方が、パークアンドライドのパークの役割で駐車をして、バス会社や市のバス等様々な方法があると思いますが、予約制のバスを活用してそこからつくばの観光ができるとよいと思います。今つくばではバスを使って里山散策をやっていますよね。実はうちの家内も先日行ったのですが、里山散策は非常に地元を知る上で、メリットがあるのではないか、これを観光に生かさない手はないのではないかと考えていました。パークアンドライドのパークの部分をうまく活用しながら、単に人を運ぶだけではなくて、観光の出発地点、まさにゲートウェイとして使えるようにするとよいのではないかと思います。

藤田委員長：ありがとうございます。単なるパークアンドライドではなく、そこからスタートする拠点になるまさにゲートウェイですね。ハード面の整備をしつつ、ソフト面の整備、プログラム等開発をすることで、道の駅の魅力がますます高まるのではないかと思います。ありがとうございます。パークアンドライドに関しては芝谷委員も御意見いただいております。よろしければお願いいたします。

芝谷委員：元じゃらん編集長の芝谷と申します。私も神谷委員と長嶋委員がおっしゃった通りだと思っています。今、関東で1番新しい道の駅は、去年の7月7日にオープンした神奈川県湘南茅ヶ崎という湘南にある道の駅なのですが、ここもインターからすぐ道の駅で、いまだに土日は大渋滞になっています。カスタマーの皆さんに聞いたわけではないですが、恐らく行くストレスがすごいのではないかと考えていますし、1回行ったらもう十分となるのではないかと思います。つくばの道の駅も、リピーターをすごく大切にされた方がいいと思いますので、そういった面でも、このパー

クアンドライドを含めて、駐車場をどうしていくかは、すごく大切だと思います。

藤田委員長：ありがとうございます。このパークアンドライドを成功させるためには、駐車場の台数の十分な確保や、訪れる方たちに、いかにストレスなくまた来たいと思ってもらえるかというところも、十分に検討しなければいけないということですね。ありがとうございます。RVパークやサイクルスタンドなどの設置ということで、御意見をいただいております。こちら長嶋委員が書いてくださいましたが、補足がもしございましたら、お願いいたします。

長嶋委員：RVパーク、サイクルスタンドと挙げていますが、もともとつくばは自転車のまち、サイクルのまちと打ち出しています。りんりんロードを政府がナショナルサイクルルートに指定しましたよね。3本同時に指定したのですが、私はこの時の選定委員でした。りんりんロードを指定するかどうかを検討していた時に問題がありました。ゲートウェイが少ない、ホテルが少ない、途中で休憩する場所がないという課題があり、本当にりんりんロードをナショナルサイクルルートに指定にしているのかと議論になりました。りんりんロードに近い場所に道の駅を作るということで立地条件が良いです。土浦と岩瀬にサイクルゲートウェイがありますが、中間にはありません。沼田の駅は、一応車が通れるようになっていますが、非常に狭いです。そういうことであれば、さきほどのパークアンドライドと被りますが、広い駐車場を作り、そこに自転車愛好家の方が車で来て、道の駅からスタートをして、りんりんロードに行けるとよいなど。一方で、りんりんロードへつながる自転車専用道路等の設置の問題も今後出てくるかもしれませんが、いずれにしても、そういう設定が必要ではないでしょう

か。それに伴って、様々なものが施設として必要になってくるだろうと思います。今後、ナショナルサイクルロードのフォローアップが必ずあるため、道の駅を通してつくば市からは、こういうところをちゃんとフォローしましたと言えるような成果が出てくるのではないかと、そういうメリットがあるのではないかと考えています。

藤田委員長：ありがとうございます。すでにある、つくばの自転車ブランドの知名度を、存分に道の駅を活かすことで、相乗効果で道の駅の価値も、利用者の満足度も高まる場所に成長させることができる大変重要な施設の導入機能だと言えます。ありがとうございます。ホテルの宿泊に関する御意見というものもいただいております。先ほど、事務局からの説明でも、宿泊を伴う観光というところに、努力の余地がまだまだ残っているというようなことも伺いましたが、このあたりについて御意見をいただければと思います。平賀委員、よろしくお願いいたします。

平賀委員：平賀です、よろしくお願いします。前回の委員会の時も、私はバイクで周っていることをお伝えしたのですが、車で周っている方は車中泊ができるわけです。でも、バイクはそれができないので、私はホテルに泊まることが多いですが、ホテルやキャンプ等の宿泊施設が必要になってきます。今回はホテルということで、つくばのお酒と食事を気軽に楽しめることを意見に書きました。バイクで行くと、お酒の試飲をしたくてもできない。せっかくこれだけつくば市に美味しいお酒が様々揃っているのに、飲めないのはとても悔しいという気持ちがあるので、ホテルがあることによってお酒を飲んで宿泊して、現地で楽しむことができるようになるというのがまず1番のポイントです。もう一つ、なぜ道の駅にホテルということなのですが、今、全国でマリOTT系列のホテルが道の駅に隣接している

ところが増えてきています。個人的な意見ですが、例えば、道の駅を点々と回っていて、つくば市にある道の駅が、今日の最後の道の駅となったときに、宿泊施設が隣接していなかったらホテルのある都市部まで 30 分ほど移動しなければいけません。道の駅の隣に宿泊施設があれば、道の駅を閉店まで楽しんで、そのままホテルにチェックインをして、モーニング等があれば朝御飯は道の駅で食べて出発しようことができます。そういった意味から、つくば市は宿泊施設が少ないと伺っていたため、ホテルがあればよいなと思っています。

藤田委員長：ありがとうございます。実体験に基づいた御意見は大変参考になります。マリオット系列の事例を出していただきましたが、筑波山麓には、古くからある旅館、ホテルがありますが、今の御意見はそこと競合するのではなくて、もっとシンプルな形の宿泊施設を想定されて御発言いただいたかと思います。そうすることによって滞在が増えれば、つくば市に落ちるお金も増えるでしょうし、利用者の方たちの満足度も高まる、といういい効果が生まれると思います。ありがとうございます。宿泊施設に関しては、芝谷委員も、ナイトタイムツーリズムという言葉を出してくださいましたが、こちらも滞在を伸ばして利用数を高めるということでしょうか。

芝谷委員：そうですね。つくばの弱みとして挙げられている滞在時間が短いや、単価が低いといった課題解決として書かせていただいています。つくばは、夜も星空が綺麗で、観光資産だと思います。また、夏が閑散期であることも弱みとされていますが、夏はファミリー需要も高いので、お子様たち向けのつくばで夏の思い出体験、夜の観光のようなところにもっと伸び代があると思います。また、ホテルが近くにあると、よりアクションにもつながると考えています。

藤田委員長：ありがとうございます。確かに、つくば駅から今回の道の駅は少し距離があるので、道の駅で楽しんで、つくば駅のところに戻るというのは、少し大変です。やはりこの道の駅を核として、1泊2日の観光がここで実現することがつくば観光の玄関口や拠点という機能の強化につながるのではないかと、委員の皆さんの御意見に基づいて、整理ができました。ありがとうございます。コンシェルジュ機能、観光案内機能、展望デッキについても様々な景観・眺望も見据えた御意見をいただいております。また、地域のハブとしての機能について、今の御意見からも色々伺えましたが、道の駅を拠点としながら、車だけではなく自転車やバス、公共交通のバスを手段としたすべての利用者の方にとって、満足のいく設えが求められていることが伺えます。ありがとうございます。食農に関して意見を交換していきたいと思います。こちらは、食と農の魅力を発信し、地域農業を振興するというもので、この地域、そしてつくば市全般農業が大事な産業になっています。まずは何ととっても人気が高い物産・農産物の直売所に対する御意見、御要望をたくさんいただいております。こちらについては、まさに議論の中心的な役割を担っていただけるであろう笹本委員、いかがでしょうか。具体的に取り入れると魅力的な道の駅になるのではないかと、というような御意見がありましたら、お願いいたします。

笹本委員：JAつくば市で一番推しているのは、やはり有機栽培の野菜やお米です。ただ、5年後にも同じだけの生産量を確保できるかは心配しています。今のところ、直売所の担当者に色々歩いてもらって、野菜や米など、様々な種類を増やしていただけるよう農家さんに頼んでいるので、直売所を発展させていきたいと思っています。

藤田委員長：ありがとうございます。5年後の生産量が確保できるかというのは、営農される方が減少する心配があるということですね。魅力的な道の駅にするには、常に有機栽培も含めて米や野菜等の農産物の種類も量も豊富にあることが大切なので、もう一つの課題ですね。ありがとうございます。JA経由ではなく、農家さんから直接道の駅に卸していただくような農産物も考えられるでしょうか。

笹本委員：加工商品を扱おうかと上の者と検討しています。ただ、フルーツは冷凍が良い等、内部でもまだ意見が分かれています。

藤田委員長：ありがとうございます。引き続き御検討をお願いいたします。横山委員からは御意見ございますか。

横山委員：やはりつくばという土地柄、米や野菜は美味しいものがたくさんあることの情報発信、PRをすることでリピート率が上がればよいと考えています。

藤田委員長：ありがとうございます。道の駅から発信できるPR力というのは、本当に大きいと思います。私がこの道の駅に関わるようになって、道の駅を扱うテレビ番組や、コーナーの多さにとても驚いています。それだけ全国の皆さんが道の駅を目的地として来てくれるということで、つくばの地場産のものが全国に知ってもらえ、とてもすごいことになると思います、PRの大切さを実感いたしました。全国の道の駅を1番御存知な平賀さんも、人々は地元の食材やグルメに魅力を感じて、あの道の駅に行きたいと思っていると感じますか。つくばにとっても、やはり食は大切だと思いますか。

平賀委員：道の駅に行けば、その地域のことは一目でわかるといってもいいと思います。私は特に郷土料理とかが好きなので、B級グルメなどがあれば、絶対に食べるくらいです。やはり道の駅で地元の野菜や食材を使い、つくばの食の豊かさをPRしていくといいのではないかと思います。

藤田委員長：ありがとうございます。郷土料理や、B級グルメは、もし、つくばにもうすでにある、そのまま提供可能なものがあれば、今後の委員会の中で、ぜひ地元の皆さんに案を出していただければと思います。新たに商品開発をして、「ここの道の駅はこれだ」というように戦略的に商品を作った事例もあるのでしょうか。

平賀委員：例えば、栃木県の茂木町はゆずが特産品です。そのため、道の駅もてぎでは第6次産業としてゆずを使った加工品などを様々販売しており、ゆず塩ラーメンも提供しています。こちらがとても人気で、お土産用の生麺やカップラーメンも販売されていました。そのようにつくばでも、つくばのお米や食材を使った商品を開発して、ここの道の駅に行けば食べられるものとなれば、それはまた一つの強みになると思います。

藤田委員長：確かに、そうですね。つくばの素材が有名なものがあったとしたら、その素材を買いに行くだけではなくて、その素材を使ったここでしか食べられないものがあれば、絶対に行きたくなりますね。ぜひ、そのようなものの開発も含めて、食と農を、多くの方に受け入れてもらえるような、楽しみの目的になることを目指していければと思います。ありがとうございます。つくばのラーメン横丁という面白いことを提案してくださった神谷委員に補足いただきたいと思います。

神谷委員：ちょうどこのアンケートに答えているときにお腹が空いていました。

道の駅では農産物直売所が鉄板なのですが、茨城県内の道の駅は葉物の量が売り上げに直結しており、先ほど話に出たように葉物の生産量が問題になってくると思います。ありがたいことにつくばには、ラーメン屋さんが数え切れないほどあります。もちろん市外から出店しているラーメン屋さんもありますが、観光コンベンション協会でも福来みかんを使ったラーメンがあります。陳皮を麺に入れてみるなど様々な使い方をして、福来紀行という形で市内のラーメン屋さんに協力していただいています。道の駅の利用者の年齢層を幅広くするため、年配者から子供まで好きなラーメンは効果的だと思います。道の駅へ来る目的は野菜の購入が基本となりますが、お腹がすいたからラーメン屋さんに子どもと一緒に寄って、それをきっかけに道の駅を少し散策してみようとなるのではないのでしょうか。つくばは自転車のまちですし、パンのまちでもありますが、ラーメンは非常に勢いがあります。ただ、ラーメン業界には派閥があるため、それをどうまとめていくのかは難しいポイントです。

藤田委員長：ありがとうございます。外国籍の方の料理だけでなく、つくばの伝統的な料理も含めた多国籍・多文化のフードコートの意見があります。多国籍・多文化というキーワードを出してくださいました梅本委員、お願いいたします。

梅本委員：決して外国籍の方の料理だけという意味ではなく、外国籍の方の料理も含め、今挙がったようなB級グルメや、つくばの郷土料理等、つくばの色々なバリエーションの料理を楽しめるようなフードコートになるとよいと思って書きました。私が通っていた大学は留学生比率が50%というところで、その食堂が地元の人が通っていたくらいとても人気で、いつも

行列ができていました。いきなり個人の外国籍のお店に行くのは敷居が高いですが、フードコートであれば試してみようという気になりますし、食べ方のスタイルも文化や国によって様々なので、道の駅としても、目新しい面白いコンテンツになるのではと思い提案させていただきました。

藤田委員長：ありがとうございます。つくばが科学のまち、研究のまちで、大学や研究所の、OB、OGの方々もたくさんいらっしゃるということで、世界中から様々な方々がつくばにお住まいで多国籍・多文化なまちであることは、つくば市の大きな特徴です。この観点からの食と農の魅力を発信することも、つくばのオリジナリティの一つになり得ると梅本委員の御意見を伺いながら思いました。ありがとうございます。食農についてたくさんの御意見をいただきました。今、私たちは観光客目線や、遠くから道の駅に来ることを想定して議論をしていましたが、周辺に住む方々の生活の水準も向上させるためにも、鮮魚や精肉店の観点というのも非常に大切だと思います。自然や科学について議論したいと思います。この基本目標は、自然と科学が共存する研究学園都市としてのブランド力を高めるということです。これに関して、植物園を提案して御意見くださいました松崎委員より御意見をお願いします。

松崎委員：ひたち海浜公園のネモフィラのように、花は大変様々な老若男女の方を集客できるものです。ひたち海浜公園は植え替えなどで大変コストがかかっているのではないかと思いますので、あれほど大規模でなくても、立ち寄った際に四季の様々な花が見られる、癒しの場があればいいのではないかと思います、提案させていただきました。

藤田委員長：ありがとうございます。花のコンテンツはとても集客力があります。実際にお花が大好きな方たちは遠くからわざわざ高速道路に乗って、ひたち海浜公園にも行ってらっしゃいます。季節の花が見どころになって集客ができるということも、大きな観点になると思います。それから、花の良さというのは、やはり癒される場所になるということですね。刺激を求めるのも大事ですが、癒しを求めて道の駅に行くというのも、リピーターを増やすという意味でも、日常に溶け込む存在になるという意味でも、大切な観点かと思います。ありがとうございます。つくばの四季折々の自然を感じてもらうということで、自然散策の御意見もいただきました。横山委員お願いします。

横山委員：この地域は筑波山の麓、山々に囲まれた土地柄のため、季節によって風景がかなり変わります。来た方に散策していただいて、そういった自然を感じてもらうのがいいのではないかと考えています。

藤田委員長：ありがとうございます。これは道の駅を起点にしながら、徒歩で散策するということですね。これと松崎委員の御意見にある季節の花々を組み合わせられるとよいと思いました。メディアの観点では、道の駅つくばは何がある場所なのかを明確にした方がよいということです。例えばテレビ取材に来ていただくとなったときに、何がここの売りなのかが一言で言えるような道の駅である必要性というのは、非常に高いと思います。こちらについても、今後より具体的に固める方向で議論ができればと思います。ありがとうございます。教育・文化を見ていきたいと思います。教育・文化は、多世代の学びと文化の継承、発展を支えるというところに、基本目標が掲げられております。ここでは、子どもが遊んだり、体験したりする施設の導入の御意見があります。これに関して、宮本委員より御意見

をいただければと思います。よろしくお願いします。

宮本委員：つくば市は滞在時間が短いという課題に対して、ファミリー層の来店を目指す場合は、ファミリー層は基本的に子ども中心で行動すると思うので、子供が興味あるコンテンツを道の駅に作ることで、滞在時間も長くなり子供も楽しめるようになります。さらにその子供が、子供時代に楽しかったという経験を持つことで、将来もつくばに住み続けてくれる人も増えることから将来の先行投資にもなると思い、子供目線での子どもが楽しめるコンテンツ作りが大事だと考えています。

藤田委員長：ありがとうございます。子どもにフォーカスした道の駅もすごく大切だと思います。これに関しては、松崎委員からも屋内遊び場という子どもの観点の御指摘いただいておりますので、御意見の補足がありましたら、お願いいたします。

松崎委員：宮本委員と同じく、屋内外の遊び場があることで、親や祖父母も子供を見ながらゆっくり滞在できるようになり、そういう方たちも一緒に来ていただけるのではないかと思います。また、安全に遊べる場所もあれば、リピーターとなることも期待できると思います。ゆっくり遊んで滞在時間が伸びると、消費活動も活性化していくのではないかと思います。

藤田委員長：ありがとうございます、子供とその家族が来て滞在してくれるということで、滞在時間が増えれば、そこでの消費も増えます。そのときに買いたいものがちゃんとあるというのも大事ですよ。どのような人々が、どういう使い方をして、その時に何を求めるのかという想像をうまくすることができれば、道の駅に求められる機能がおのずと見えてくるのではな

いかとお二人の意見を聞きながら思いました。そして、ふるさと納税についても御意見をいただいております。こちらは長嶋委員、この観点をお示しいただきありがとうございます。補足がありましたらお願いします。

長嶋委員：つくばのふるさと納税の返礼品は結構良いものがあるので、地元の方はもちろんですが、よそから来ていただく方々に先ほどの物産と含めて販売したり、併せて納税を促進したりすることで、市としてのメリットがあると思いました。事前の意見には書いていませんが、教育・文化という視点で一つ付け加えさせていただきます。私の持論で大変恐縮ですが、つくば市には交通公園といわれるものが1か所ありますが、名称のみで実質的に交通安全の指導をしているような場所はないです。新しくBMXのコースができましたが、あれは本当に好きな人の趣味の世界ですね。自転車の青切符制度も始まったため、子ども段階からしっかりと、特に自転車の交通安全教育をこれからは行っていかなければいけないと思っています。せっかく道の駅を作るので、その施設の一端でもいいと思うので、自転車の交通安全教育のできるような場所をつくっていただきたいと思っています。それを作ることによって、中学生になって学校に自転車で行くようになる前に指導ができます。定期的に市のバス等を使って連れてくることで平日に30分や1時間指導ができます。道の駅に来たお客様についても、そこで随時、自転車を貸し出す仕組みをつくって、交通ルールを学べる施設があるといいのではないかと思います。今、調べている限り、道の駅に交通安全施設もついているところはありません。

藤田委員長：日本初になるということですか。

長嶋委員：そういうことです。だから、ぜひこの機会に市にお願いしたいと思っています。

藤田委員長：つくば市にも、サイクルコミュニティ推進室があるので響くのではないかと思いました。ふるさと納税に関しては、つくば市はおそらく納税が出ていく方ですね。つくば市に住みながら、別の自治体に納税しているというパターンが多いと想像できるので、つくば市以外の方、道の駅に来た方々に、つくばに納税していただくためにも、このようなコーナーは重要だと思います。返礼品が大変魅力的であれば、ふるさと納税としてもやってみようと思われそうですし、その商品開発は、道の駅の売りの一つにも、商品としてもいいと思いますので、これはそのまま実現ができるのではないかと思いました。ありがとうございます。日常に移りたいと思います。日常に関しては、暮らしを支え、つくば市への愛着を育むというのが基本目標になっております。まずは、日常ということで、例えば高齢者のパークゴルフや子どもの遊び場であるとか、日常使いとしての道の駅の御意見をいただきました。松塚委員、補足で御意見がございましたらお願いいたします。

松塚委員：いくつかの道の駅に行っているのですが、その中にパークゴルフがありました。その道の駅では高齢者の皆さんがパークゴルフを健康的に朝からやられていました。前回、櫻井委員たちは、ここの地域の特徴として高齢者が多いと仰っていました。遠くから来る方もいらっしゃるかもしれませんが、道の駅はその地域の方にも恩恵があっていいものだと思うので、道の駅の近くにも高齢者の方たちが気楽に行けるような場所として使っていただければと思いました。福岡県の田川郡は田舎で、そこにある道の駅はとても広いです。駐車場もものすごく広くて、子供の遊び場のス

ペースの近くに駐車場があります。それだけでなく、農産物売り場の近くにも駐車場があります。そうすると、子供を遊ばせるときは遊び場に近い方に車を止め、農産物が欲しい人達は農産物売り場に近いほうに停めるようになります。やはり駐車場で子供がうろうろしていると危ないこともあるので、広い土地を活かしてエリアを分けて作ってみるとよいと思います。外だけではなく、室内の遊び場も田川にはあり、先ほど言った自転車用の交通公園の空間も、そこにできるのではないかとすごくイメージが湧きました。

藤田委員長：ありがとうございます。日常使いということで、松塚委員が御意見くださったように、池田地区の皆さんにとって使いやすく、日常的に訪れる場所であるという観点が大変大事だと思います。このような点について、櫻井委員に御意見を伺えればと思いますけれども、お二人いらっしゃる櫻井委員、どちらからでも御意見いただければ幸いです。お願いいたします。

櫻井和男委員：パークゴルフを実際に地域の何名の方がやっているかは把握していないのですが、実際にどこかの施設で、何名かで集まってやっているという話は聞いています。地元の人だけでなく、お子さんや高齢の方経験者の方も当然来るとしますので、自分で道具を持ってこなくても、貸出してちょっとだけやっていこうかなという期待はできると思います。いい提案だと思います。

藤田委員長：ありがとうございます。パークゴルフ以外にも、日常使いとして道の駅を使うとしたら、こういうものが入っているといいと思われるもの、これが今足りていないから、これが入っているといいというもので何か思

い浮かぶものがございますか。では、また後ほど伺います。考えておいていただければ幸いです。日常というところで、防災、避難所等の防災拠点に関する部分というのも、池田地区の皆さんにとって非常に大きな意味を持つと思います。こちらに関して追加で御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。もしここに書いてあることで、すべてということであれば、防災関連施設や避難所というところで御意見をいただいたということにいたします。ありがとうございます。シャワールームも防災関連施設と位置づけられます。もっと広げると、温浴施設や温泉施設という御意見をいくつもいただいております。日常的には楽しい温泉、温浴施設として近くの皆さんも、市内の方、市外の方にとっても良い施設になりますが、災害が起こった時には、地域の温浴状況を助けるような施設にもなり得ます。温浴施設は、道の駅全体をデザインするときに防災、避難所というような位置づけとして、何をその設備に求めるのかによっても、導入する、導入しないということが変わってくると思いました。大変重要な御意見だと思います。ありがとうございました。イベントスペースやマルシェ広場に関して、イベントスペースには、屋根が付いていることも大事だということが、御意見として出ておりましたが、これも大変重要です。災害時の非日常利用時にすべて屋外ある施設か、それとも、屋外だけれども屋根がついているのかという使い勝手の違いは、非常に大きいものがあると言えるので、これも重要な御意見だと思います。ありがとうございました。これまで事前に御意見を寄せていただいた皆さんに確認をさせていただき、5つの観点に従って、皆さんに御意見を補足していただきながら、まとめてまいりました。地元の市議会議員でいらっしゃいます、小久保委員、これまでの議論、御意見を聞いて、これを足してみたらどうかとか、ここはいねと思った等、何か御意見ございましたら、いただければ幸いです。

小久保委員：様々なお話が皆さんから出て、欲しい施設、期待できるものというの、皆さんぼんやりとイメージはしてきており、おおむねまとまってきたと思います。前回も同じことを言いましたが、もちろん周囲から自動車を使ってつくばの道の駅に来ていただき、観光のためになるというのが期待として非常に大きいことではあります。これは機能の追加の要望ではなく、個人意見として自分が期待していることですが、やはりつくば市の北部のエリアは車社会なので、自転車の来訪者も期待できますが、2次交通として、つくば駅からは公共交通を使っていらっしゃると思います。この場所は、非常に桜川市、筑西市、下妻市が近い場所であって、お客さんとしてではなく、地元の人たちが都心に行く一つの交通の結節点になり得るという期待を自分は思っています。あくまで意見ですが、重要な視点として考えていただくとありがたいなと思っております。

藤田委員長：ありがとうございます。大変重要な御意見ですね。今までと視点を変えて考えることで、そこにもニーズがあることに気づけます。ここを的確に捉えて、道の駅の利用者としてつなげていくということですね。これは忘れることがないように、大事にしていく御意見だと思います。ありがとうございます。梅沢委員も、御意見ございましたらお願いいたします。

梅沢委員：ありがとうございます。地元の方が普段から使えるような場所だといいなというのは、先ほど聞いていてすごく思ったのと、鮮魚、食肉についても地元の方も来て購入する場所となり、持続可能でたくさんの方が利用できる場所にできたらいいと思いました。小久保委員が先ほど仰っていましたが、桜川、筑西、下妻方面から都心にいける1番の交通ポイントでもあると思いますので、その視点は私も素晴らしいと思いました。よろしくお願いいたします。

藤田委員長：ありがとうございます。小久保委員と梅沢委員の御意見を伺うと、今はつくば市民の意見だけを聞いていますが、桜川や筑西等の別のところで利用を想定される方たちが、何を期待しているかという意見の把握も大切かもしれないですね。ありがとうございます。大変重要な御意見ありがとうございました。飯田委員はこれまでずっと道の駅をこの地域へということで、御尽力いただいているといいます。これまで全体的な基本目標や、具体的な導入機能の意見を出していましたが、ここまでお聞きになって、いかがでしょうか。

飯田委員：皆さんの意見を聞いて全部実現できたら素晴らしい道の駅ができるだろうと想像を巡らせて、楽しく拝聴しておりました。それを踏まえて2点ほど意見があります。実は昨日、商工会の理事会がありまして、理事の方から1点言われたことが、資料の中にもありました。その方はペット関係の仕事もされており、ドッグランのような動物の観点が必要だという話をされていました。ドッグランがあるところは多いですが、犬を連れての食事はなかなかできないということで、ドッグカフェのような、ペットを連れて入れるところが多いといいなという意見です。もう1点は池田地区の方も仰っていましたが、このあたりは飲食店が少ないです。中心部に住んでいる方は驚かれると思いますが、私も近くに住んでおり、ピザの宅配が来ないエリアです。私はピザなんて食べなくてもいいと言っているのですが、やはり高齢者も多いので、飲食施設ができれば、そういう人のために宅配ができるシステムができれば、周りの高齢者も含めて助かるなと思っていました。全体に、全部実現できたら非常にいいなと思って、楽しく聞いておりました。

藤田委員長：ありがとうございます。宅配需要もありますね。道の駅ができて、そこに多様な食が生まれれば、そこから宅配することもできますし、まさに今、小久保委員と梅沢委員がおっしゃったように、道の駅で作って、桜川や筑西の周辺の自治体まで配りに行くということは新しい考えです、ありがとうございます。非常にためになります。ドッグランやドッグカフェについても、先ほどの事務局が示してくださったアンケートや、全国の調査、人気の道の駅に何の機能があるかというような分析の結果からも、需要が示されています。今日、皆さんに御意見いただいたことと、それから、全国的な人気の施設、必要とされている導入施設が何なのかということ等を踏まえて何が必要かという検討を皆さんと一緒に進めていきたいと思えます。ありがとうございます。菊池委員、様々な観光コンテンツや交流をするための内容も御意見としてたくさん出てきましたが、何かこういうふうにしたらいいいという御意見や、今日の議論全般で御意見があれば、よろしく願いいたします。

菊池委員：ルール・アワーの菊池と申します。すみません、まず意見の入力が大変遅くなりまして、申し訳ございませんでした。今ずっと拝聴してまして、私も同じような意見持っていました。私は観光業に長く携わっているので、一つ追加する視点とすれば、やはり誘客をどうするかという部分です。誘客機能として特徴的な、展望デッキ、スカイテラスのようなものを私はイメージしています。そこの屋根はソーラーパネルになっていて電力を生み、非常時には、それを電源として活用できる形になれば、筑波山という自然資産の風景を楽しめる場所になりえると思います。1番忘れてはいけないと思うのが、酷暑対策です。ソーラーパネル等の屋根があるのは良いと思いますが、他にも足元に水を流してひんやりできるような場所作れるとよいと思います。今はもう6月下旬から10月まで30度あります

し、酷暑日という名前ができて、外に出ないようにしましょうというような日もあります。涼むことができ、かつ、つくばらしさを体験できる場所を、忘れずに盛り込んでいけたらいいと思います。あと1点は、道の駅ができる则ち皆さん道の駅に行きたいと思いますが、道の駅が目的地にならないようにすることが大切です。道の駅から2次交通を使つて、地域の事業者さんのところに、直接買ひに出たり、実際はどんなふうにつづっているのだらうと見に行けたり、そういう情報を集約する施設として道の駅があるべきと考へております。

藤田委員長：御意見ありがとうございます。まさに、先ほどゲートウェイという言葉も出てきましたが、道の駅が入り口になつて、そこがブラックホールのように吸い込んで終わりでは、地域のためにもなりません。ここを拠点にしながら、もう一つ先のここで販売されているものをつづっているところに行くとか、さらにつくばのこと知ってもらふというような、そういう仕組みつくりやコンテンツがとても大事ですよ。それが地域コンシェルジュ機能につながっていくと思いますので、ハード面の整備をしつつ、ソフト面、つまりどのような運用をするのか、どのようなサービスを提供するのか、どのようなコンテンツをつづっていくのかということまで私たちは想定しながら、何をここに盛り込んでいかなければいけないのかを考へていくと、必要としていることと、その未来が大きくずれることなく、前に議論を進めていくことができると思います。地域の御意見はその点においても大変勉強になります。ありがとうございます。もし、日常使用に関して櫻井委員から何か追加で御意見がございましたら、お伺ひいたします。いかがですか。

櫻井和男委員：私個人的な意見として言わせてもらおうと、この施設を一つのハブ施設としてつくば市の魅力、つくば周辺魅力を発信できるようなものにしていただければと私は考えています。日常の中の防災関連について、過去に池田地区は桜川が氾濫して、私が生まれてから2度決壊しています。道の駅の予定地は水浸しでした。それが50年の間に2度くらいありましたかね。今は桜川の整備が進んでいるので、まずないとは思いますが、一応そういう地域でしたので、池田地区にかかわらず、あの周辺の避難所を含めた防災拠点にもしていただければ大変ありがたいです。

藤田委員長：ありがとうございます。池田地区の立地の特性というものを、やはりよくご存じですね。この道の駅ができることで生活の安心が向上するという観点は、市だけでなく県としての投資も必要になっていくものだと考えております。望まれる、求められる道の駅にするために、ぜひ、つくば市、茨城県、そして国交省など含めて作っていただければと思います。ありがとうございます。吉沼委員は、今回御出席いただいてこの委員会はこんなに喋らされるのかと驚いていらっしゃるのではないかと思います。様々な意見交換を通じて観光コンベンション協会としての期待や御意見がございましたら、お寄せいただければと思います。よろしくお願いいたします。

吉沼委員：回ってくるとは全く思っていませんでした。私の出席は1回目なのですが、1回目の委員会の様子などは前任者にも少し聞いてはおります。実は今日は、皆さんの御意見を聞いてゆっくり考えるところから始めようと、始まる前は思っていました。実はここに出席する前にも、会員の一部の方と道の駅に関するお話をする機会がありました。会員の方は、もともと筑波山に関係するような地元に住んでいらっしゃる、あるいは生活して

いる、商売をしているような方々なのですが、何人かからこの妄想をぜひ伝えてくれと託されました。しかし、その方々の妄想はすべてここに網羅されていました。展望デッキを望む声もありました。先ほど神谷委員からもありました、ラーメンはつくばの一つの強みではないかということで入れてもらいたいという意見もあります。自然散策の意見は出ないかと思っていたら、言っていただけました。その方も自然散策をできるような立地条件にある場所なので、ぜひ利用していただきたいと仰っていました。やはり、池田地区をはじめ、地域の方々が普段から足を運べるような場所になってもらいたいという話がありました。最初に戻ってしまうのですが、1番強く私が訴えられたのはパークアンドライドで、非常に高い期待の意見が多くありました。ただ、やはり観光事業者さんは私どもの会員でもありますので、そういった方の意見などもお聞きしながら、具体的なものにつなげられればと、まずは感じているところです。どのようにしていったらいいかというのは、この先も検討することだと思いますので、そこに私も参画させていただきながら一緒に考えていけたらと思います。特にパークアンドライドの意見は強かったと私は自覚をしています。

藤田委員長：ありがとうございます。観光コンベンション協会の皆さんの観点にも、今日出てきた御意見がちゃんと寄り添っていた、同じ方向を見ていたということが、吉沼委員の御発言によって分かり、これで間違っていないのだということを改めて皆さんの中で確認でき、自信が持てたと思います。その中でも、特にパークアンドライドに関して、一方向ではなく、多方向の別の地域からのパークアンドライドも、今日の意見交換の中で改めて見えてきた大切な観点でした。まさに道の駅が道の駅である理由というのが、今日の皆さんの御意見の中に凝縮されていたのではないかと思います。ありがとうございました。

平賀委員：すみません、最後に一つだけお伝えしたいのですが、今回どのような道の駅にしたいかということで、皆さんから様々な御意見をいただきました。私も飯田委員がおっしゃったように、この施設が全部まとまったらすごくいい道の駅になると思うし、2日間ぐらいないと足りない素晴らしい道の駅になると思います。ただ、ハード面に関してはお金をかけていけば、何でも作って揃えることができると思いますが、最終的に道の駅は誰がやるのかが重要です。運営をされる方がつくば市を盛り上げようという気持ち、情熱を持っていることでより良い道の駅になると思います。運営を始めても右肩上がりのところもあれば、その後、下がっていくところもあるので、ハードを整えることだけでなく、誰が運営するかも重要です。京都の南山城村の道の駅長さんから誰がやるかが本当に重要だということをこの前聞いてきたばかりなので、皆様にもお伝えしようと思い、この場をお借りしました。

藤田委員長：ありがとうございます。そうですね、人がやることですから、建物を建てて満足ではいけないということはとても大事な御意見です。長嶋委員お願いいたします。

長嶋委員：時間がきているのに申し訳ありません、御参考まで。今、私たちは道の駅というものをどう作るかという視点で語っています。でも、もう一つこの道の駅をどういうものとして作るか、要するに、道の駅だけでなく付帯施設の検討も必要です。桜川では、現在国道50号線沿いの坂戸というところに、ショッピングモールと道の駅を合わせて作ろうという動きが進んでいます。ショッピングモールの施設は整地が終わり、テナント募集をしています。多分市の方も御存知かと思いますが、道の駅だけつくるのではなく、ショッピングモールと道の駅を合わせて作っていくという方法も

一つあることを、御参考までにといいお伝えしました。この近くにもショッピングモールができる予定になっていますから、道の駅の予定地まで持っていくのはもう難しくなっているのです、最初は申し上げませんでした。

藤田委員長：ありがとうございます。道の駅は作って終わりではなくて、それをずっと使い続ける、それを運営していく人々がいるという観点があり、ずっと右肩上がりで維持できるのかも踏まえながら、この検討を進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

3 議事 (1) 基本理念と基本目標の案

藤田委員長：それでは、15 頁、16 頁に戻ります。今日の議論の最初に、基本理念の案の A と B という二つ事務局から示していただきました。そして、この基本理念ですが、今からどちらに決めますと話し合うのではありません。案 A と B は、方向性が異なっておりますので、それらの案に込めたメッセージを踏まえながら、基本理念をどちらの方向性で、進めて行くのがよいか、それとも、基本的には案 B が今日の議論の中から良いと思ったけれども、ここの言葉は、こういうふうに書き換えた方がいいとか、そういう御意見がもしございましたら、挙手にてお知らせいただければと思います。改めて考えていただいている間に、もう 1 回案 A と B について説明をいただけると皆さんの今日の議論の中からどちらの基本理念が合っているか気持ち整理できるかと思いますので、もしよろしければ事務局から再度お願いできればと思います。

事務局：承知しました。まず、基本理念は、メインタイトルとサブタイトルで構成をしています。メインタイトルは、つくば市のイメージを表現、サブタイトルで、道の駅の目指す将来像や価値観を表現するというのが A 案、

15 頁A案になります。いずれも道の駅のイメージを表現しているのがB案です。まずA案からですが、様々な地域資源と市民や観光客が出会い、人々や農業と科学、地域と地域がつながり、そうした出会いと交流を通じて、新たな価値観や挑戦が生み出され、未来へつながっていく拠点となることを表現しているものとなっております。未来志向のつくば市の都市イメージを取り入れつつ、観光と日常利用を両立する拠点性をバランスよく再現したコンセプトとなっております。続きましてB案です。メインタイトルでは、研究学園都市として発展してきた未来志向の精神を表現しています。サブタイトルの空の広さ、これは、筑波山麓に広がるのどかな田園風景を想起させます。知の深さは、様々な研究機関や大学が集積する知的資源の豊かさを想起させます。つくば市の象徴である、豊かな自然、知の集積という、この二つの個性を体現し、それらが交わることで、新たな価値を生み出す道の駅の役割を表現したコンセプトということで案を作らせていただいております。以上です。

藤田委員長：ありがとうございます。ここでどちらかに決めてしまうだとか、言葉を決定してしまうということは少し難しいと感じました。もしよろしければ、第2回の議論を踏まえて、今、案AとBがありますということを委員の皆さんには御認識いただいて、この会議が終わってから、どちらでもすてきだから、どちらでもいいなと思った方は、そのままでいいですし、案Aのこれがいいが、この言葉はこう変えた方がいいのではないかという具体的なアイデアをお持ちの方は、事務局が皆様にメールなどで、御意見を伺いますので、御意見をいただければと思います。そして、それらの御意見を踏まえながら、委員長と事務局とで、基本理念の案を改めてまとめていく方向で進めていきたいと思いますが、これに関しては、委員の皆様よろしいでしょうか。ぜひ、もっと良くなるのではないかという御意見を

お寄せいただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは、これまでの内容に関して、御意見、コメント、言っておきたいものがありましたら、挙手をお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

神谷委員：すみません、時間も押している中ではありますが、先ほどパークアンドライドの話と平賀委員からバイクの話、サイクリストの話が出ました。実は5月31日に、小久保委員と一緒につくば市共催でツール・ド・つくばというのを開催します。実は10年前まで10年間、開催していましたが、それをまた復活して今回の大会を催すことになりました。ここでやはり筑波山は887メートルなので、887人の参加者を募集しますが、やはり皆さん自転車で来て、結局泊まる場所がないという、今回の話とリンクする課題があります。パークアンドライドの話をしていたときに、バイクもしくは自転車でツーリング、サイクリングに来られた方が、当然入浴施設も必要になると思いました。ただ、近くの宿泊施設への影響等、様々考えなければいけません。また、大きな駐車場を作ると、必ず問題が起きると思います。もちろん、特に地元の池田地区の皆さんに御迷惑がかからないようにする必要があります。一昨日、小久保委員と関西空港の隣のりんくう公園に視察に行きました。隣に大きな病院等があるのですが、外からバイクが侵入しやすく、迷惑をかけてしまいます。だから、そういった大きな駐車場を作るときは、例えば、RVパークにする等の様々な工夫で防ぐことができます。そうは言っても、自転車、バイクの方もお酒を飲みたい、とシャワーも浴びて、少し寝床につきたいという思いがあるが、なかなか旅館やホテルまでは泊まれないという方も多いでしょう。あくまでもこれは案で、行政はあまり好まないかもしれませんが、例えば、トレーラーハウスも非常に安価で泊まれます。そうすれば翌朝、先ほど櫻井委員からも話があったように、いわゆる地域の魅力を見つける観光、マイクロツーリズム

ムの発信の地点にもなりやすい宿泊を提供し、その地域の方に嫌がられない施設にできるのではないのでしょうか。もう一つ池田地区で問題なのが、いわゆるローリング族です。毎週毎晩のように騒いでいますので、広い場所ができれば、当然、そのような人たちが来て、自分たちの楽しみに勝手に使われるケースも想定できるので、侵入対策も工夫が必要だと感じました。

平賀委員：神谷委員の補足というわけではないですが、ニュースで御覧になって、御存知の方もいらっしゃるかもしれません。岡山県の笠岡バイファームという道の駅には、ちょっと悪いバイクの方々が夜中に集まって、ブンブン音を鳴らして大周回するというので問題になっています。そのせいで、今道の駅は夜間に照明をすべて消してしまっていて真っ暗です。警察も見回りにきて取り締まりをしますが、全然一向に収まらなかったのも、照明を完全に落とすということ、去年の年末ぐらいに取り組みを始めました。ローリング族が多いということで、ライダーといってもマナーの良い方もいますが、良くない方もやっぱり多いので、そういった対策は、確実に必要になってくると思いました。

藤田委員長：ありがとうございます。道の駅でありながら、真っ暗にせざるを得ないところが出てきているということなのですね。

平賀委員：そうです。一般のトラックドライバーや、車で休憩したい方も照明がない真っ暗な状況で利用しなければならない。というか、そのような状況だと利用できないですよ。そこまで追いやられてしまった道の駅も全国にはあるので、そういった事実も知っていただければと思いました。

藤田委員長：そうですね、ありがとうございます。つい道の駅のいいところとか、目立つところばかり目に入ってきますが、そうでない道の駅もたくさんあって、課題も抱えていることが明らかになりました。過去の事例もきちんと把握して分析しながら、そうでない道の駅になるためにはどうしたらいいのかも考えていきたいと思います。事務局の皆様と共に考えていきたいです。ありがとうございます。そのほか、まだ御意見がある方がいらっしゃいましたら挙手でお知らせください。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。ではまた何か思いついたことなどありましたら、いつでも事務局の方にメールやお電話などで御意見いただければと思います。たくさんの議論を重ねていただきましてありがとうございます。それでは、次の議事に入りたいと思います。議事の３番ですね。今後の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

3 議事（3）今後の進め方

事務局：今後の進め方について説明していきます。資料の 34 頁を御覧ください。

本日、委員の皆様からいただいた内容を踏まえまして、次回の第 3 回で導入機能の範囲を示させていただきたいと考えております。先ほど委員長からも提案がありました、理念の検討につきましても後日メールでお知らせをさせていただきます。委員会の冒頭で説明をさせていただきました通り、全体のスケジュールは現在見直し中でございます。第 4 回以降は第 3 回の委員会の中で改めて説明をさせていただく予定です。以上でございます。

藤田委員長：ありがとうございます。今の事務局の説明に対して質問のある方はいらっしゃいますか。また、全体を通して他に何かございましたらお知らせください。

平賀委員：全然今回の議事に関係なく、半分宣伝みたいになってしまうのですが、私と芝谷委員が本の監修に関わった、道の駅のランキング本が4月の上旬に発売しました。よかったら今回の委員会の参考にもなりますので、御覧いただければと思います。

藤田委員長：御紹介ありがとうございました。必読本ですね。私も購入して読みます。それでは、これまでの進行御協力いただきましてありがとうございます。事務局へお返しいたします。よろしくお願いいたします。

4 その他

事務局：藤田委員長、ありがとうございました。続きまして、次第の4「その他」でございますが、木材の地産地消や森林バンクの取り組み事例について紹介をさせていただきます。株式会社里山建築研究所北野様、よろしくお願いいたします。

里山建築研究所 安藤：貴重な時間をいただきありがとうございます。私は里山建築研究所の安藤と申します。今日は、皆さんが道の駅の基本理念等の基本的なことを議論されておりますが、私どもは、技術的な御説明をさせていただきます。御参考になれば幸いです。つくば市で進めている森林バンク制度との連携、活用をしてこういった施設を整備してはどうかと御提案させていただきます。まず、導入として筑波山麓の代表的な風景がいくつか見ていただきます。これは筑波山の麓にある平沢官衙遺跡です。奈良時代の大和朝廷による拠点の一つであったということで、たくさんの高床建築群の跡が出てきたものを復元した三つの建物です。今年の4月に、25年前に建てられた建物の改修工事が行われて、私どもの事務所で関与させていただいた事例です。この三つの建物は右から順に、校倉、土倉、板

倉です。古代の建築の基本はすべて木で作るということで、機能としては米倉です。山麓に稲作が伝えられ、関東でいち早く稲作が始まった地としての、この遺跡がつくば市の歴史文化の象徴であるということで復元され、国の史跡となっております。戦後の長く続いた木材資源の不足や、様々な都市化の中で、木造建築はすっかり廃れていたのですが、1980年代に入りますと木造建築が日本の森林資源の回復と共に全国的に見直されました。今、公共建築は基本的に2階建て以下であれば木造で作ることという法律も整備され、全国的に木で作る公共施設というのが重要な課題となっております。筑波第一小学校体育館は1987年にできたものですが、日本で大型の木造建築を初めて作った事例として脚光を浴びて、今日に受け継がれています。筑波大学で私が在職中に関わらせていただきました。筑波第一小学校は統廃合されましたが、板倉の建築ということでつくば山麓の非常に大事な景観をつくっている代表的なもので、歴史的な建築としての活用が検討されております。このようにつくば山麓の文化・歴史的景観というものに調和した道の駅が望まれるわけですが、その中で、現在つくば市で推進している平地林の森林バンク制度が始まりました。これも恐らくつくば市のような都市化が進んだ地域において、非常に先駆的な事例ということで注目されています。また、今後市民が平地をどのように活用して、コミュニティを作っていくかが非常に期待されているところです。この森林バンク制度は、平地林の整備をして市民たちが活用するということですが、活用するには平地林を間伐することが生じ、その材料が大量に発生します。これを活用して道の駅を作るということは、つくば市ならではの地産地消の取組として実現できないかという御提案です。例えば、つくば市は脱炭素社会の先行都市ということで様々な取り組みをされていて、平地林もその一部だと思います。現在の山の森林資源は、ほぼ杉や檜の戦後植えられた人工林です。それが60年、70年経ち、活用できるチャンスの時期となり、

木造建築が推進されている背景があります。木材資源は、建築はもちろん、家具のほかに燃料としても非常に大事なもので、50年くらいで伐採をして概ね木材の半分が用材、半分が燃料として適切に使われれば、森林が循環します。この循環がなりたてば森が必ず再生されて、都市に木造建築として新たな森ができます。炭素の貯留に着目すると、こういった取り組みが脱炭素社会の一つのモデルになりますので、このような形で道の駅を作ってはどうかという御提案です。平地林がどの程度選定され、登録されて、どのような木があるかを試算してみましたので、説明いたします。

里山建築研究所 北野：森林バンク制度の公開されているリストを拝見し、その中から樹齢5、60年を過ぎる檜がある人工林を、あくまでもデータ上で試算したものを参考値としてお示しします。1,000平米以上の竹林等を除く平地林が、今登録している中では13.8ヘクタールありました。この樹齢で人工林とすると、ヘクタールあたり千本立っているという試算をしており、そのうち30%の間伐をする場合は、13.8ヘクタールから4,140本の木が伐採でき、原木量に換算すると2,070立米という数字になります。そこから取れる生材料がその半分の1,035立米です。通常、坪あたり2立米の原木量が必要とするため、それで試算すると約1,750平米（約525坪）の建物の建築が可能な分の木材量になります。先ほど脱炭素の話もありましたが、このように木造建築を建てるということはCO₂の固定と平地林の整備が進むというメリットがあります。例えば、およそ1,000立米の木材を使用すると、100年の耐久性をもつ構造体は191トンの炭素を貯留し、温室効果ガスの低減をはかり、地球温暖化の防止に寄与するという試算があります。このような試算から、森林バンクの平地林を活用した道の駅の提案とさせていただきます。

里山建築研究所 安藤：つまり、十分に議論可能であって、地産地消は可能であるということです。つくば市の平地林を私もいくつか周っていますが、特に平地林がよく残っているのは豊里地区だと思います。実際の森の景観と内部に立っている木がどのようなものかをお見せします。比較的よく整備されている代表的な例だと思います。農地と平地林がモザイク状になっているのが、とても特徴的で、良いところです。様々なコミュニティを作ることにも適した面積をしています。1軒の農家が農地と平地林をうまく循環させながら利用できる、長い歴史が積み重なった文化的な景観と言えると思います。まだ薪炭利用される方もいらっしゃり、木が定期的に伐採されて利用されますが目に見えるような立派な木も残されている状態です。樹齢60年、70年の木でだいたい私と同じ歳なのですが、戦後に植えられた木がちょうど切られるいいサイズになっています。これから作る道の駅には使いごろの木材がたくさん残されているということです。こちらの状態になってしまった方がむしろ多いと思いますが、放置されると段々と藪に変わっていきます。荒れ果てると平地林としても市民が入りにくい状況になってしまいますが、そのような中にも杉の木が残っております。これを手入れするとまた木は育ち、持続的な利用が可能になるというのが平地林の整備の目的の一つです。私たちが住宅や施設でこれまで10年間取り組んでいる例から、伐採をしてどのような木が取れるのかを紹介します。大体これは1,500平米程度の割と小ぶりな平地林の半分を伐採して住宅1軒を作った例です。筑波山周辺には製作所が残っているため、伐採して製材することができ、全部地元で加工ができる状況です。得られる木材は、柱や梁になるような立派な角材と、板材というのがたくさん取れます。この板で壁や床、屋根板とすることができるので、極端に言うと100%木造建築の建物をつくることができることが可能であります。全部木で作ると、柱、梁は立派な30センチくらいの構造材と3センチ以上の厚板で組んだ非

常に堅牢で健康な建物となります。化学物質がほとんど無く、断熱に優れた室内環境ができます。また、暖房を薪ストーブやペレットストーブにすることで、建築の端材になったものもすべて利用できて、脱炭素に大変貢献できます。老人ホームやデイサービス、コミュニティを併用した施設の例もあります。こういった少し大型の木造建築も平地林を活用して建てています。こちらは大きなホール、食堂で、内部空間のサイズが道の駅に近いです。また、家具もすべてこの材料から切り出せるということで、なるべく集成材のように加工しないで元の木をそのまま使うことも地産地消の魅力になります。最後に、平地林は里山なので、燃料や用材、あるいは農業資材、肥料、こういったものすべてをこの平地林が賄って有機農業を行なって、恐らく500年以上持続してきたと思います。その中で、平地林の一定の割合は茅場であったことが分かっています。茅というのは、屋根にふく茅、牛馬を飼う家畜の飼料、そして農業につかうマルチな資材として重要な資材でした。左側の写真が高エネルギー加速器研究所の中に残る茅場で、文化庁の文化財の森です。文化財を守る資材を供給する茅場として、7、8年前に県内で初めて選定されました。この茅によって茨城県の茅葺き文化財、筑波山麓の茅葺き文化財の茅がここで得られています。また、この葛城の森はまさしくこの地域の平地林です。このなかも茅場で、茅葺き保存会によって毎年刈り取られて、茅場が持続しています。この茅葺きによって筑波山麓には、茅葺き小屋や筑波山梅林の東屋、重要文化財の茅葺民家が何軒か残っております。そして平沢官衙で今年葺き替えた茅葺きの建物もとても大きいのですが、こちらもこの茅場が利用されて持続的に維持・管理できる状態になっています。平地林は林と草原、この二つがあることによって明るく多様な生物が生息する素晴らしい平地林となります。近年多少荒れていますが、市民の森として蘇ることは素晴らしいことだと思っています。最後に、板倉構法というのはベンチャーで、私が筑波

大学在職中の20年間に開発した技術開発です。45分間裏側で燃やしても表側には燃え抜けないという実証実験ができ、日本で初めて木だけで準耐火構造となる素晴らしい技術となりました。このような技術も応用して、ぜひ地産地消の道の駅を作っていければよいと思います。最後に課題を整理して終わりにします。

里山建築研究所 北野：平地林の活用をして道の駅を作るための課題ということで、簡単にまとめさせていただきました。左側に仮にですがスケジュールを書かせていただいています。1年目は、森林バンク登録地ごとの調査と台帳作成を行います。直径、本数などを調査し、事業計画や予算書が必要となります。2年目は、基本設計を行います。基本設計に基づく木材の必要量を算出し、木材調書の作成、木材調達が必要です。木材調達の部分は分離発注として工事よりも先行して行う必要があります。分離発注をして2年目の年に伐採をし、製材をするという計画を立ててみました。2年目の課題としては、製材の管理費の予算、木材分離発注の予算も必要となります。間伐については森林環境税等の補助金申請を行い、それを充当することも検討ができるかと思います。3年目は、実施設計に入り、それと並行して木材の乾燥、加工、保管を行います。このとき、木材の保管庫の確保が必要になります。4年目は、施工・着工になります。

里山建築研究所 安藤：お時間いただきありがとうございました。このようなことは大変手間暇がかかるので簡単にできることはないですが、近年は学校や木造にふさわしい大規模木造を作る際に地元の木材を活用する仕組み、技術の事例が出てまいりました。これに関しては専門的な計画が必要となりますので、改めてこういうことも事前に計画されて地産地消の道の駅というストーリーをたてると素晴らしい道の駅ができるのではないかと

考えています。ありがとうございました。

事務局：里山建築研究所の皆様、どうもありがとうございました。

神谷委員：今の説明の目的は何か。

事務局：本日の次第の「その他」の中で、木材の地産地消について御紹介させていただきます。

神谷委員：「道の駅にこの建物を使いましょう」という話とは全く違うということであればよいです。しかし、このような話は、委員会とは切り離して行ったほうがよい。この説明だと、委員の皆さんがこの建物で道の駅を作るのだと解釈してしまう。これは非常に公平性の観点から問題になります。この委員会は宣伝の場ではないので、例えば別の事業者がこの場で、私たちの会社は「このようなことをやります」と話すのはよろしくなく、あくまでも我々との話は引き離していただいた方がよい。公平性の観点から以後は気をつけてください。

事務局：承知いたしました。本日の会議なのですが、前回の第1回に引き続きまして、オブザーバーとして茨城県議会議員鈴木議員、茨城県道路維持課の皆さんにも御参加をいただいております。恐れ入ります、鈴木県議から一言いただけますでしょうか。

鈴木県議：皆様方の慎重、あるいは積極的、そして施策に富んだお話をずっと私も聞かせていただいて、本当に夢が広がると思って拝聴しておりました。道の駅に関しては、当初の目的に加えて様々なものが加わってきたと改め

て感じております。つくば市の社会課題を解決するための拠点となりうるものだと思っております、防災の拠点としても再エネばかりではなくて、様々な最先端技術を使った、災害時にも威力を発揮するものでなくてはならないと思っております。また、先ほどの木材利用も非常に重要な観点です。そういったことも含めて、よりよいものになっていけばよいと思います。先ほど藤田委員長のから国や県との連携が必要だというお話を伺いました。本日は茨城県道路維持課の方がいらしております。冒頭に神谷委員がおっしゃった交通渋滞の観点では、渋滞連鎖の起点となっているのは山頂近くにある、道路維持課が所管し、道路公社が持っている駐車場や市の駐車場等、様々なものが絡んでくると思っております。より皆さんの想いをしっかりと繋げるためにも、これからも拝聴しながら勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5 閉会

事務局：鈴木県議ありがとうございました。以上で本日の案件はすべて終了いたしました。先ほど神谷委員から御指摘いただきましたとおり、会議の構成につきましては再度検討させていただきます。委員の皆様、オブザーバーの皆様、本日は長時間にわたりまして議事進行に御協力いただきまして誠にありがとうございました。次回の第3回つくば市道の駅整備検討委員会は7月上旬を予定しております。以上を持ちまして第2回つくば市道の駅整備検討委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

第2回つくば市道の駅整備検討委員会 次第

日時：令和8年（2026年）4月23日（木）午後3時00分から

会場：つくば市役所コミュニティ棟1階 会議室1

1 開 会

2 報 告

3 議 事

- (1) 基本理念と基本目標の案
- (2) 導入機能の意見交換
- (3) 今後の進め方

4 その他

5 閉 会

つくば市道の駅整備検討委員会 名簿

(順不同)

区分	所属等	氏名	備考
市議会議員	つくば市議会	神谷 大蔵	筑波地区選出議員
	つくば市議会	小久保 貴史	筑波地区選出議員
	つくば市議会	梅沢 尊信	筑波地区選出議員
学識経験者	国立大学法人 筑波大学	藤田 直子	教授 芸術系・ランドスケープデザイン 筑波大学健康ライフスタイル開発研究 センター 副センター長
	国立大学法人 筑波大学	山本 早里	教授 芸術系・デザイン学
	国立大学法人 筑波技術大学	梅本 舞子	准教授 建築計画・福祉のまちづくり
関係機関の 役職員	つくば市商工会	飯田 勝美	理事 商工会 道の駅検討委員会 委員長
	一般社団法人 つくば観光コ ンベンション協会	吉沼 正美	事務局長
	つくば市農業協同組合	笹本 秀一	営農部長
	つくば市谷田部農業協同組合	横山 治夫	営農部長
道の駅に関 して識見を 有する者	アドバイザー	平賀 由希子	道の駅旅ライダー (バイクで全国の道の駅制覇)
	アドバイザー	芝谷 千恵子	道の駅・温泉ソムリエ 「じゃらん」元編集長
	アドバイザー	菊池 真由美	株式会社 ラール・アワー 代表取締役
関係地区の 代表者等	池田区会	櫻井 昭	区長
	池田第二区会	櫻井 和男	区長
市民	公募市民	長嶋 良	
	公募市民	松崎 若美	
	公募市民	松塚 直子	
	公募市民	宮本 亮	
市職員	つくば市	柳町 哲雄	経済部長

<オブザーバー>

- ・茨城県議会議員 鈴木 将 議員
- ・茨城県土木部道路維持課

第2回つくば市道の駅整備検討委員会

1 開会

2 報告

3 議事

(1)基本理念と基本目標の案

(2)導入機能の意見交換

(3)今後の進め方

4 その他

5 閉会

令和8年4月23日

1 開 会

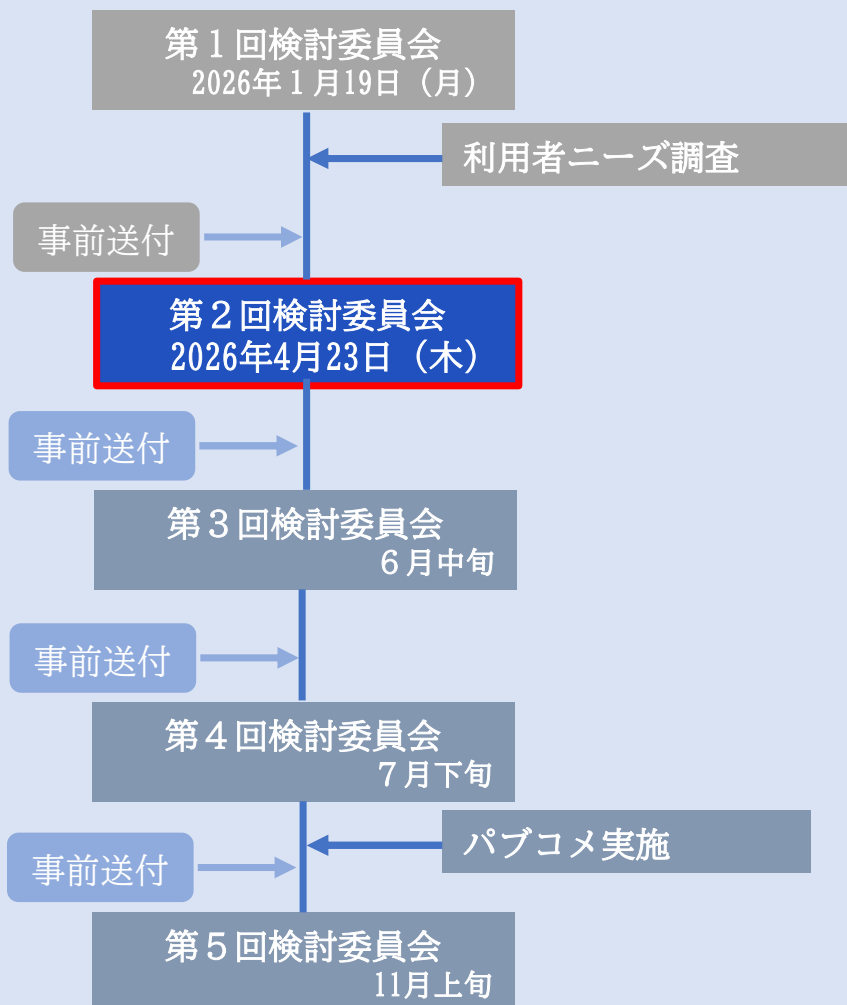
2 報告

2 報 告

(1) 第2回検討委員会の位置付け

- ・基本理念・基本目標(案)を提示し、今後の方向性について共有する。
- ・導入機能・施設について意見交換を行い、考え方を整理する。

□基本構想の検討フロー案



□基本構想を検討委員会で示す時期案

検討委員会で示す時期案	基本構想の目次構成案
第1回	1. これまでの検討経緯と整備目的
	2. 計画対象地の位置・概要
第1回 第2回	3. 現状課題・ニーズ
	4. 基本理念・基本目標の設定
第2回 第3回	5. 導入機能・施設の検討
第3回	6. 道の駅整備及び管理運営手法の検討
	7. 概略事業スケジュール

2 報 告

(2) 大規模事業評価制度

❖大規模事業評価制度の概要

1趣旨・目的

大規模事業に関し、意思決定過程を含めた実施過程全体の透明性及び効率性の向上を図ることを目的に、事業に着手する前に、必要性や効果等を客観的に評価します。

2対象とする事業

評価の対象とする事業は、学校、公園、福祉施設その他のつくば市が事業主体となって実施する全ての施設(インフラ施設(道路、橋りょう、上水道施設又は下水道施設をいう。以下同じ。))を除く。)の整備事業で、総事業費(用地取得費を含む。)が10億円以上の事業その他市長が必要と認める事業です。

3評価の実施

評価は、原則として、事業実施に必要な事業費に係る予算計上前に実施します。

4評価の視点

評価は、事業の必要性等について、以下の6つの視点から行います。

- ・事業の必要性 市が担う必要性及び実施する必要性
- ・事業の妥当性 整備手法、事業規模及び整備場所の妥当性
- ・事業の優先性 事業の着手時期の適切性
- ・事業の有効性 経済波及効果、市民生活の利便性向上等
- ・事業の経済性・効率性 費用(維持管理費及び運営費を含む。)の適切性及び事業採算性
- ・地域への対応 周辺環境及び景観との調和並びにこれらへの配慮、市民への説明・情報共有等

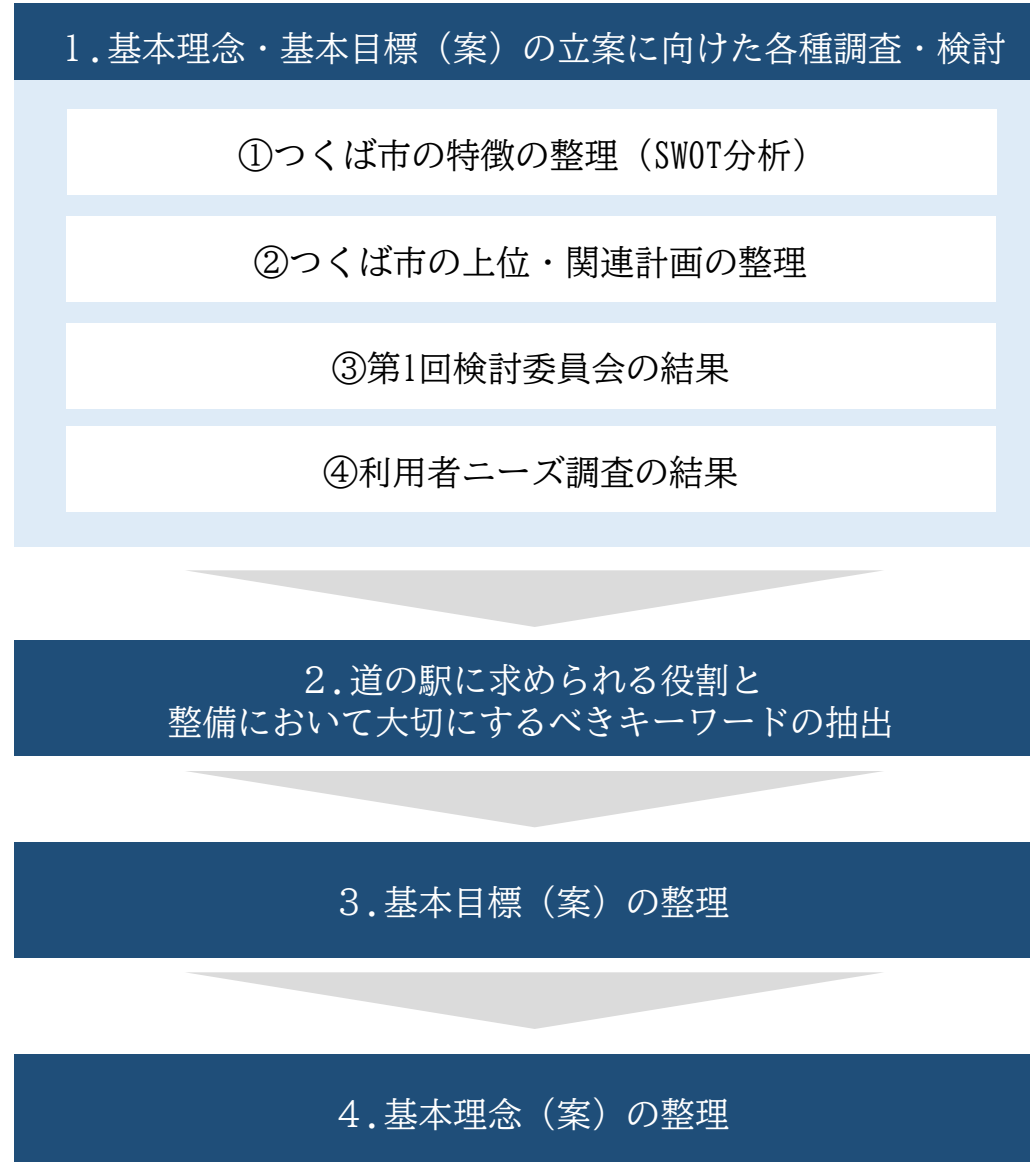
3 議 事

- (1)基本理念と基本目標の案
- (2)導入機能の意見交換
- (3)今後の進め方

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆基本理念・基本目標（案）の検討の流れ

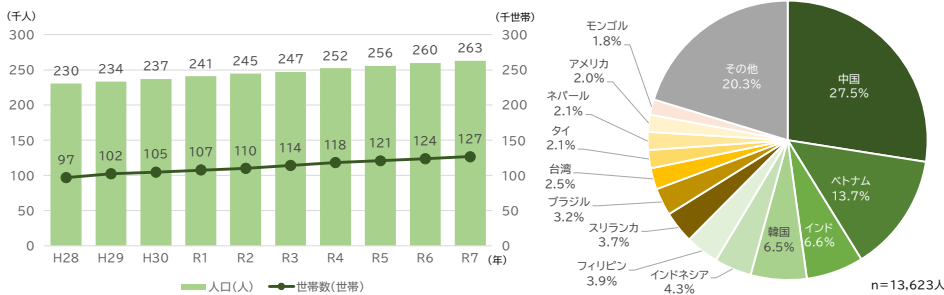


3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆1. 各種調査・検討の結果

①つくば市の特徴【SWOT分析】

S (強み)	・県内3位の観光入込客数(約390万人/R5年) ・年間200万人の集客を誇る筑波山 ・長閑な田園風景、ジオパークに代表される豊かな自然環境 ・筑波山神社、平沢官衙遺跡等の歴史文化資源も豊富 ・研究学園都市としてのブランド力(科学技術・宇宙研究等) ・国際的・学際的な教育を行う筑波大学の存在 ・「福来みかん」や「ネギ」、「常陸牛」等の農畜産物が有名 ・研究機関と連携した農業技術や新品種等の開発 ・首都圏への優れたアクセス性(TXで1時間程度) ・TX沿線を中心に人口・世帯数が増加傾向 ・外国人居住者が多い(全体の5.2%)、国内唯一の聴覚・視覚障害者向け国立大学を有する等、多様な人々が暮らしやすい ・商圈人口の多さ(30分商圈:27万人、60分商圈:235万人)    画像出典：つくば市公式HP 画像出典：つくば市公式HP 画像提供：(一社)つくば観光コンベンション協会	・筑波山を拠点とした周遊観光のポテンシャルの高さ(比較的ライトな登山者が多く、誘客・受入環境を整えば前後の周遊が見込まれる) ・地域特性を活かした体験型観光への需要の高まり ・コロナを契機とするアウトドア観光需要の定着 ・教育ニーズの高まり(放課後学習・キッズ施設) ・全国的なインバウンド需要の回復と地方誘客への機運向上(外国人居住者をきっかけとした誘客も期待) ・農業の流通改革(学校給食の地産率向上のハブ化) ・フェーズフリー拠点に対する国の期待や支援制度 ・TX沿線の移住者増加による新しい価値観の流入  ▲人口(常住人口)・世帯数の推移 ▲国籍別外国人住民数(令和6年)	O (機会)
W (弱み)	・筑波山観光に依存しており繁閑格差が激しい(夏・冬が弱い) ・観光地としての認知度の低さ、筑波山以外への誘客ができていない(市民でさえ観光資源や特産品に対する認識が低い) ・筑波山周辺に宿泊施設が少なく滞在時間が短い ・全国と比較し消費単価が低い(※茨城県全体としての傾向) ・北部の交通基盤が脆弱(前面交通量8,500台/日、渋滞リスクあり) ・中心部以外では人口減少・高齢化が進行 ・市域が広く生活圏が分散しており、地域間ニーズが異なる ・農地・墓地の用地取得手続きが複雑(農振除外・転用・事業認定) ・市内に大型商業施設が多く、競合との差別化が必要	・道の駅の全国的な飽和、差別化の難しさ ・周辺自治体における大型道の駅との競合(常総・しもつま・筑西・かさま等) ・人口減少時代による将来需要の不確実性 ・観光依存による感染症・自然災害等発生時の経営リスク ・初期投資の大型化に伴う民間参入回避のリスク(PFI/DBO採算性)	T (脅威)

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆1. 各種調査・検討の結果

②つくば市の上位・関連計画

【つくば市未来構想における目指す姿】

■まちづくりの理念

■目指すまちの姿

つながりを力に未来をつくる

- I 魅力をみんなで創るまち
- II 誰もが自分らしく生きるまち
- III 未来をつくる人が育つまち
- IV 市民のために科学技術をいかすまち

【第3期つくば市戦略プランにおける基本施策と取組キーワード】 ※本検討に関連する部分のみ一部抜粋

目指す まちの姿	基本施策		取組キーワード	
Ⅰ	Ⅰ-2	資源をみがき、いかし、魅力あふれるまちをつくる	・農業の担い手の確保・育成 ・体験型観光の磨き上げ	・市民と農のつながり強化 ・広域観光の推進
	Ⅰ-3	つくばならではの街並みや体験を創出する	・人が集まる拠点づくり	・外部人材との協働機会創出
Ⅱ	Ⅱ-1	地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる	・市民による地域交流の促進	
	Ⅱ-3	地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする	・公共施設の防災機能の整備及び維持管理	
	Ⅱ-5	多様な移動手段があるまちをつくる	・公共交通網の整備・効率化	・自転車活用の推進
	Ⅱ-6	身近な自然を守り、楽しみ、持続させる	・生物多様性・森林保全の理解増進	・環境教育・環境学習の推進
Ⅲ	Ⅲ-1	子どもも親も楽しく育つ環境をつくる	・子育て家族の交流の場や地域と交流の場の提供 ・特別な配慮を必要とする子どもの支援	
	Ⅲ-2	個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む	・つくばの特性をいかした学びの推進	・芸術文化活動の推進
	Ⅲ-3	多様性が尊重された、包摂的な社会をつくる	・国際交流や国際理解の推進	
Ⅳ	Ⅳ-1	・新たな共創の仕組みづくり	・大学・研究機関・企業等の連携によるイノベーション創出	
	Ⅳ-2	・地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる	・新たなチャレンジへのサポート	

（１）基本理念と基本目標の案

③第1回検討委員会の結果

- ＜道の駅に期待すること(一部抜粋)＞

A wide-angle photograph of a large, modern conference room. Numerous people are seated around a large, dark wood U-shaped conference table. They are facing towards the front of the room where a large projection screen displays a presentation slide. The room has large windows on the left side, covered with light-colored vertical blinds. The ceiling is equipped with recessed lighting. The overall atmosphere is professional and formal.10

3 議 事

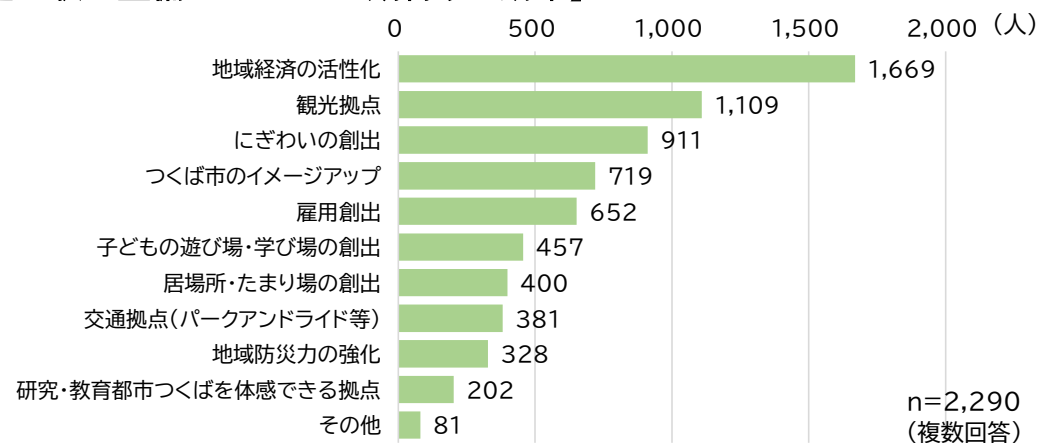
(1) 基本理念と基本目標の案

◆1. 各種調査・検討の結果

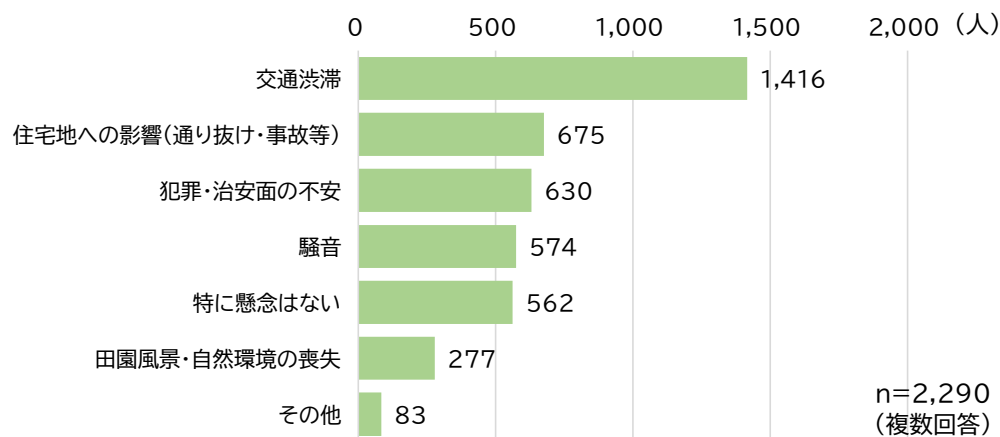
④利用者ニーズ調査の結果

- 道の駅が整備されることで期待する効果としては、「地域経済の活性化」や「観光拠点」、「にぎわいの創出」、「つくば市のイメージアップ」といった回答が多くあった。
- 道の駅が整備されることで不安を感じる点や懸念事項としては、「交通渋滞」や「住宅地への影響(通り抜け・事故等)」、「犯罪・治安面の不安」といった回答が多くあった。

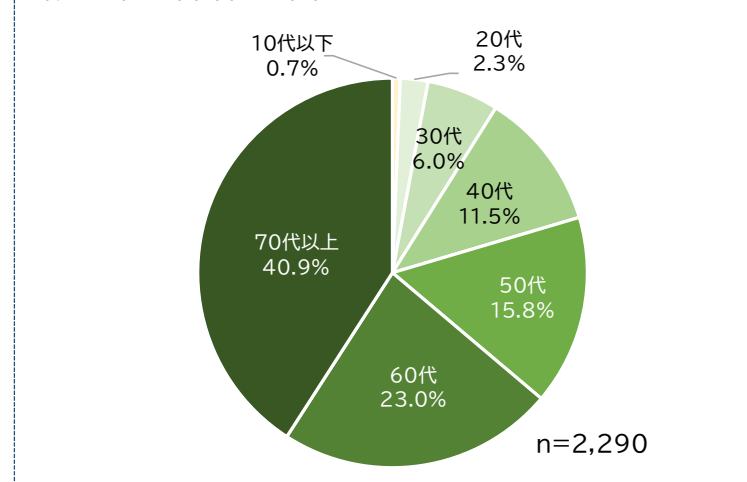
【道の駅が整備されることで期待する効果】



【道の駅が整備されることで不安を感じる点や懸念事項】



(参考)回答者の年代



※道の駅に導入してほしい施設に関する回答結果は p.30～31に掲載

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆1. 各種調査・検討の結果から見てきた道の駅に求められる役割と整備において大切にすべきキーワード

【各種調査の結果から導かれる道の駅に求められる役割】

①つくば市の特徴(SWOT分析)

- ✓多様な地域資源(筑波山、自然、科学、農産物)の有効活用とブランド力の向上
- ✓筑波山に依存しない周遊型観光・体験型観光の拠点
- ✓滞在時間や消費額の向上に資する施設
- ✓競合と差別化された道の駅(つくばらしさの発揮)

⇒多様な地域資源を束ねる交流・体験・発信拠点
⇒つくばらしさ(自然、科学、農等)を体现する施設

②上位・関連計画

- ✓多世代・多様な人々の交流促進
- ✓観光振興・農業振興への寄与
- ✓つくばならではの学びの場(科学・自然・国際交流)
- ✓イノベーションの創出
- ✓防災拠点としてのフェーズフリー機能

⇒「集う」「交わる」「広がる」機能の実装
⇒未来志向の都市イメージと整合した施設

③第1回検討委員会の結果

- ✓市民の日常利用の重視、多様な人々の居場所
- ✓多様な人々の交流拠点
- ✓筑波山観光の拠点機能
- ✓つくばらしさ(科学、自然、農)の体験・発信拠点
- ✓地域の課題解決(防災・交通)への貢献

⇒市民・観光客の双方に開かれた滞在場所
⇒交流を軸に新たな価値を創出する拠点

④利用者ニーズ調査の結果

- ✓地域経済の活性化、雇用創出
- ✓観光拠点、にぎわいの創出
- ✓つくば市のイメージアップ

⇒地域経済の活性化に資する施設
⇒つくば市のプロモーション拠点

【大切にすべきキーワード】

- | | | | | | |
|-------------------------------|--------|------|-----------|------|------|
| ● 出会い | ● つながり | ● 交流 | ● 未来志向 | ● 体験 | ● 学び |
| ● つくばらしさ(科学技術、自然環境、国際交流、多様性等) | ● 日常 | ● 拠点 | (● 防災・交通) | | |

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆2. 基本目標(案)

観点	基本目標
観光	『つくば観光の玄関口・交流拠点としての機能を強化する』 ●筑波山観光のゲートウェイとして、つくば市の魅力を発信し、地域周遊を促し地域での滞在時間の延長や消費額の拡大につなげる。 ●多様な地域資源や人々との「出会い」・「交流」・「体験」の拠点となり、つくば市への愛着を高めリピーターを創出する。
食農	『食と農の魅力を発信し、地域農業を振興する』 ●農産物や地元食材を活かした食と農の魅力を発信し、認知度やブランド力を高め、消費拡大につなげる。 ●生産者との交流や体験機会の提供により、新規就農者や関係人口を獲得するとともに、地産地消を推進し、地域農業の活力向上と食を通じた地域理解の促進に寄与する。
自然・科学	『自然と科学が共存する研究学園都市としてのブランド力を高める』 ●自然と科学が共存する都市ブランドを体現するため、科学の魅力を発信するとともに、日常的に体験できる場を提供する。 ●研究機関や大学、民間企業等と連携し、自然環境と調和した新たな価値やイノベーションを創造する場所となる。
教育・文化	『多世代の学びと文化の継承・発展を支える』 ●食・農・科学・歴史文化等、つくばならではの地域資源を活かした体験型教育や芸術文化活動の場を創出し、子どもから大人まで多世代の学びを支える。 ●教育機関(小学校・中学校・高校・大学等)と連携し、子どもたちの探求心や郷土愛を育む機会を提供するとともに、地域文化への理解を深め、未来を担う地域人材の育成に貢献する。
日常利用	『暮らしを支え、つくば市への愛着を育む』 ●市民が日常的に立ち寄り、買い物や交流を楽しむことができる「集いの拠点」として定着させる。さらに、地域資源や人々との出会いを通じ、市民がつくば市の魅力を再認識する機会を提供し、地域愛着の醸成につなげる。 ●交通結節点としての機能を備え、市内外の移動と回遊を支える拠点となる。 ●平時は「賑わい創出の拠点」として、非常時は「防災拠点」として機能するフェーズフリーの施設運営を推進する。

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆3. 基本理念(案)

【基本理念の構成と考え方】



【基本理念の留意点】

- ・つくば市らしさを取り入れた理念とする。
- ・運営事業者をこれから公募していく段階のため、特定の分野に偏らず、多様な検討ができるような理念とする。
- ・道の駅のターゲットが市民や観光客等、特定の客層に限定されないような表現とする。

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆3. 基本理念(案)

【案A】

つくばと出会う。人とつながる。未来がひらく。
～筑波山の麓から、新たな価値を創造する交流拠点～

<メインタイトルに込めたメッセージ>

- 「つくばと出会う」自然・歴史文化・農業・科学等の様々な地域資源と市民や来訪者等が巡り合う拠点機能を表現。
- 「人とつながる」人と人(来訪者と市民、既存住民と移住者等)、農業と科学、地域と地域を結ぶハブ機能を表現。
- 「未来がひらく」出会いや交流、学びや体験を通じて新たな価値観や挑戦が生まれる可能性を表現。研究学園都市として未来志向のまちであるつくば市の特性を象徴している。

<サブタイトルに込めたメッセージ>

- 「筑波山の麓から」地域の象徴である筑波山を明示。筑波山とその周辺に広がる原風景を想起させる。
- 「新たな価値を創造する交流拠点」人や自然、農業、科学等が交わることで新たな価値や可能性を生み出す拠点となることを示唆。

⇒ 未来志向のつくば市の都市イメージを取り入れつつ、観光と日常利用を両立する「拠点性」をバランスよく体现したコンセプト

3 議 事

(1) 基本理念と基本目標の案

◆3. 基本理念(案)

【案B】

未来へつながる『道の駅』 ～空の広さと知の深さが交差する場所～

※空を「宇宙(そら)」とし、つくば市らしさをさらに一段上げる案もあり。科学に寄りすぎる懸念事項はあり。

<メインタイトルに込めたメッセージ>

- 「未来へつながる」研究学園都市として発展してきた、未来志向の精神を表現。交流や体験、学びを通じて、新たな価値や挑戦が生まれていく可能性を示唆。

<サブタイトルに込めたメッセージ>

- 「空の広さ」筑波山麓に広がる田園風景や開放的な自然環境を象徴。つくば市の有する豊かな自然資源とゆとりある空間性を表現。
- 「知の深さ」研究機関や大学が集積する研究学園都市ならではの知的資源(科学技術、宇宙、教育等)の蓄積を表現。
- 「交差する場所」豊かな自然と深い知性、そして道の駅を訪れる様々な人々が交わることで新たな価値を生み出す拠点となることを表現。

⇒つくば市の象徴である「豊かな自然」と「知の集積」という2つの個性を体現し、それらが交わることで新たな価値を生み出す道の駅の役割を表現したコンセプト

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆導入機能の意見交換の流れ



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

❖ 1. 道の駅の基本的な役割

「道の駅」への導入機能の基本は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の3つです。

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

出典：国土交通省 道路：道の駅案内 概要
<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

「道の駅」の基本コンセプト

休憩機能

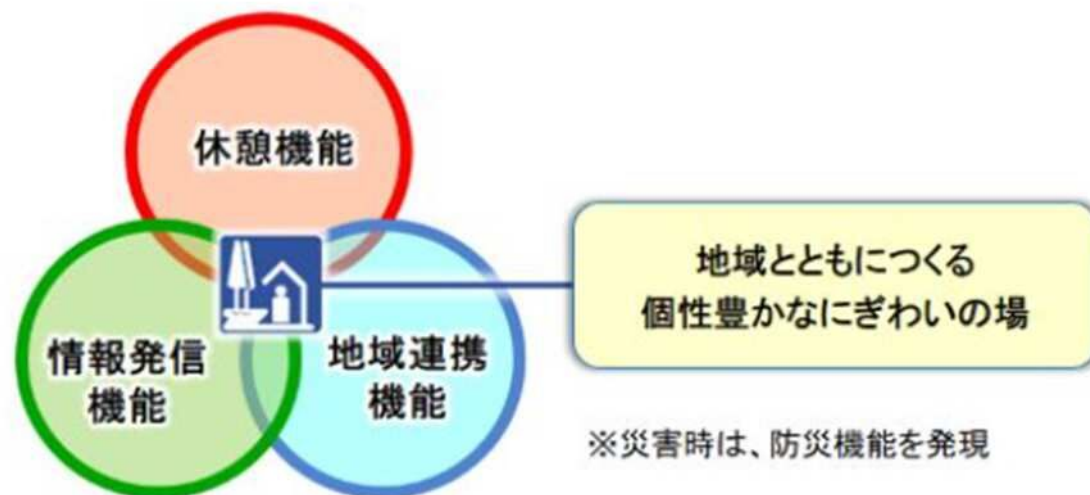
・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



出典：国土交通省 道路：道の駅案内 概要
<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆2. つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境

② 商圈人口(足元商圈:主に日常利用)

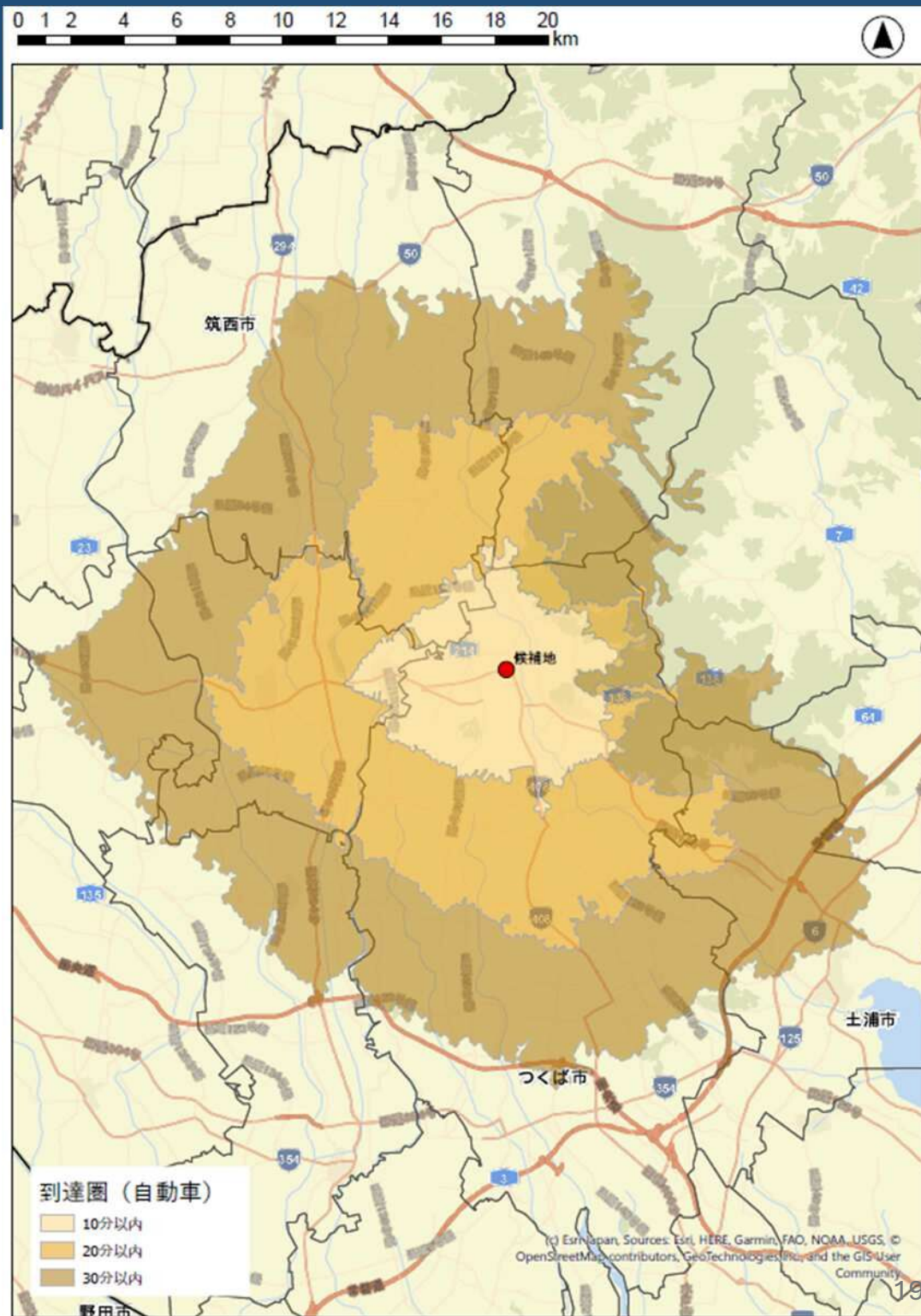
足元商圈として、自動車で10分、20分商圈での居住者を算出しました。

10分商圈の人口は約3万人、最も多い年代は60代

20分商圈の人口は約10万人、最も多い年代は40代でした。

	10分商圈		20分商圈	
人口総数	31,117	—	106,772	—
男性	15,329	49.3%	53,951	50.5%
女性	15,788	50.7%	52,821	49.5%
世帯数	10,540	—	45,281	—
□ 商圈別 年齢3区分人口データ				
15歳未満	3,090	10.1%	12,622	12.5%
15-64歳	16,585	54.2%	61,977	61.2%
65歳以上	10,951	35.8%	26,706	26.4%
□ 商圈別 年代別人口データ				
10代以下	4,365	14.3%	17,791	17.6%
20代	2,238	7.3%	13,269	13.1%
30代	2,819	9.2%	11,737	11.6%
40代	4,036	13.2%	14,058	13.9%
50代	3,911	12.8%	11,616	11.5%
60代	4,973	16.2%	13,303	13.1%
70代以上	8,284	27.0%	19,531	19.3%

※出典:総務省統計局「令和2年国勢調査 人口等基本集計 年齢(5歳階級、4区分)、男女別人口」



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆2. つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境

② 商圈人口(広域商圈:主に観光利用)

足元商圈として、自動車で30分、60分商圈での居住者を算出しました。

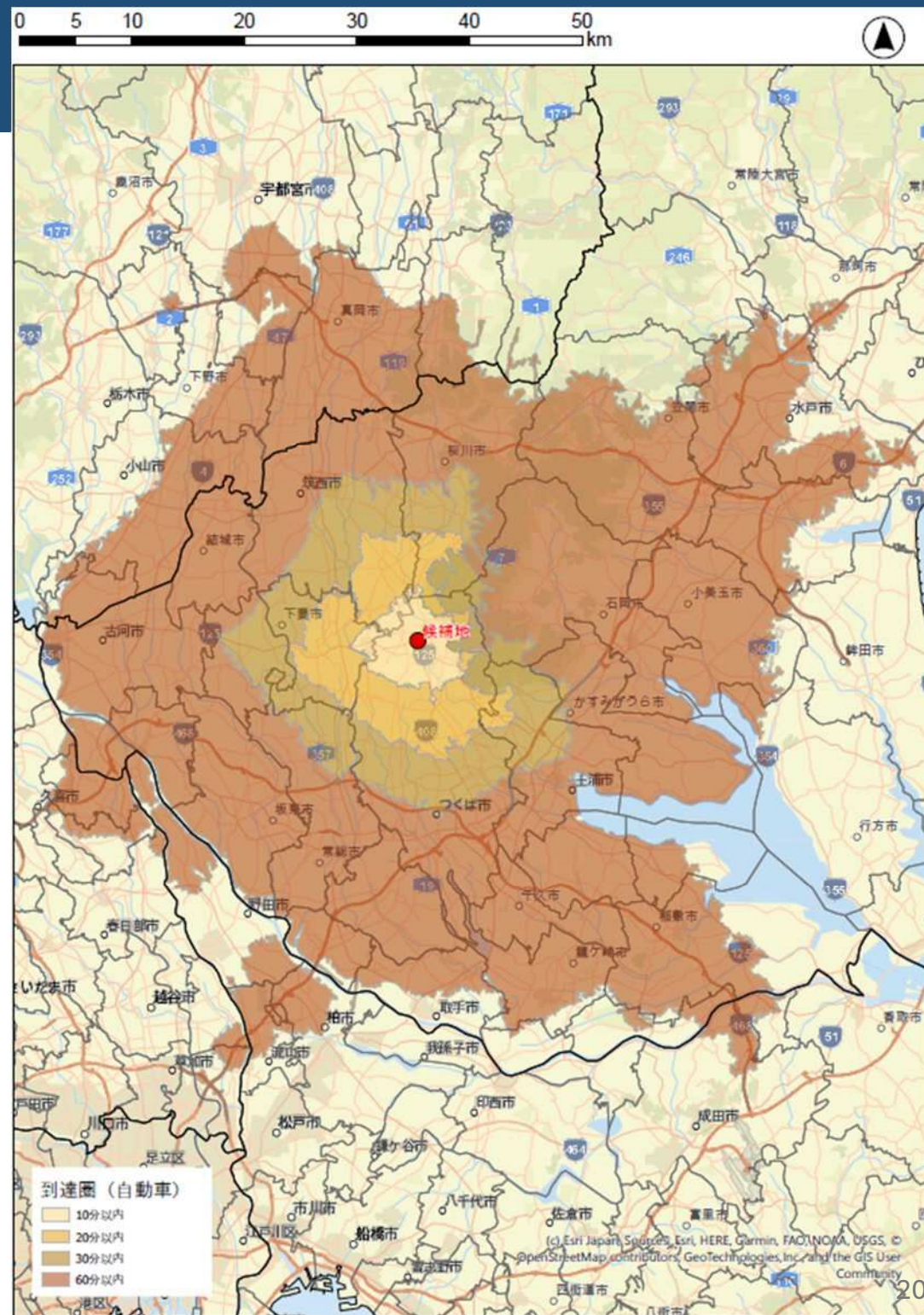
30分商圈の人口は約27万人、

60分商圈の人口は約235万人、

いずれも最も多い年代は40代でした。

	30分商圈		60分商圈	
人口総数	265,979	—	2,358,567	—
男性	133,508	50.2%	1,175,025	49.8%
女性	132,471	49.8%	1,183,542	50.2%
世帯数	99,673	—	972,128	—
□ 商圈別 年齢3区分人口データ				
15歳未満	34,487	13.5%	294,764	12.7%
15-64歳	157,012	61.4%	1,360,288	58.7%
65歳以上	64,324	25.1%	662,282	28.6%
□ 商圈別 年代別人口データ				
10代以下	47,716	18.7%	403,649	17.4%
20代	26,070	10.2%	206,696	8.9%
30代	29,421	11.5%	261,649	11.3%
40代	39,239	15.3%	347,755	15.0%
50代	33,519	13.1%	293,566	12.7%
60代	32,289	12.6%	308,388	13.3%
70代以上	47,569	18.6%	495,631	21.4%

※出典:総務省統計局「令和2年国勢調査 人口等基本集計 年齢(5歳階級、4区分)、男女別人口」

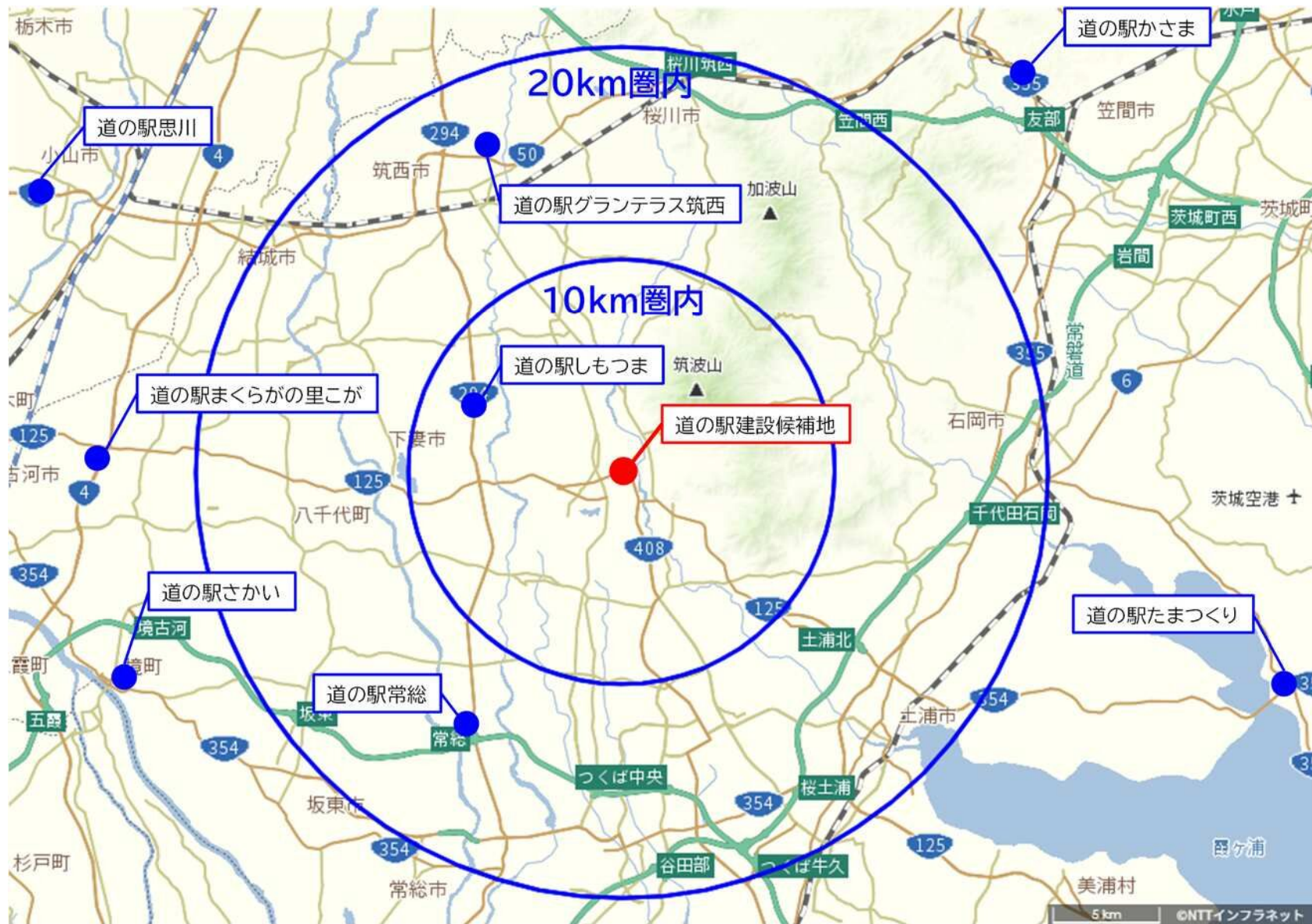


3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

❖ 2. つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境

③周辺道の駅： 建設候補地の20km圏内には3件の道の駅が存在します。



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

❖ 2. つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境

③周辺道の駅： 建設候補地の20km圏内には3件の道の駅が存在します。

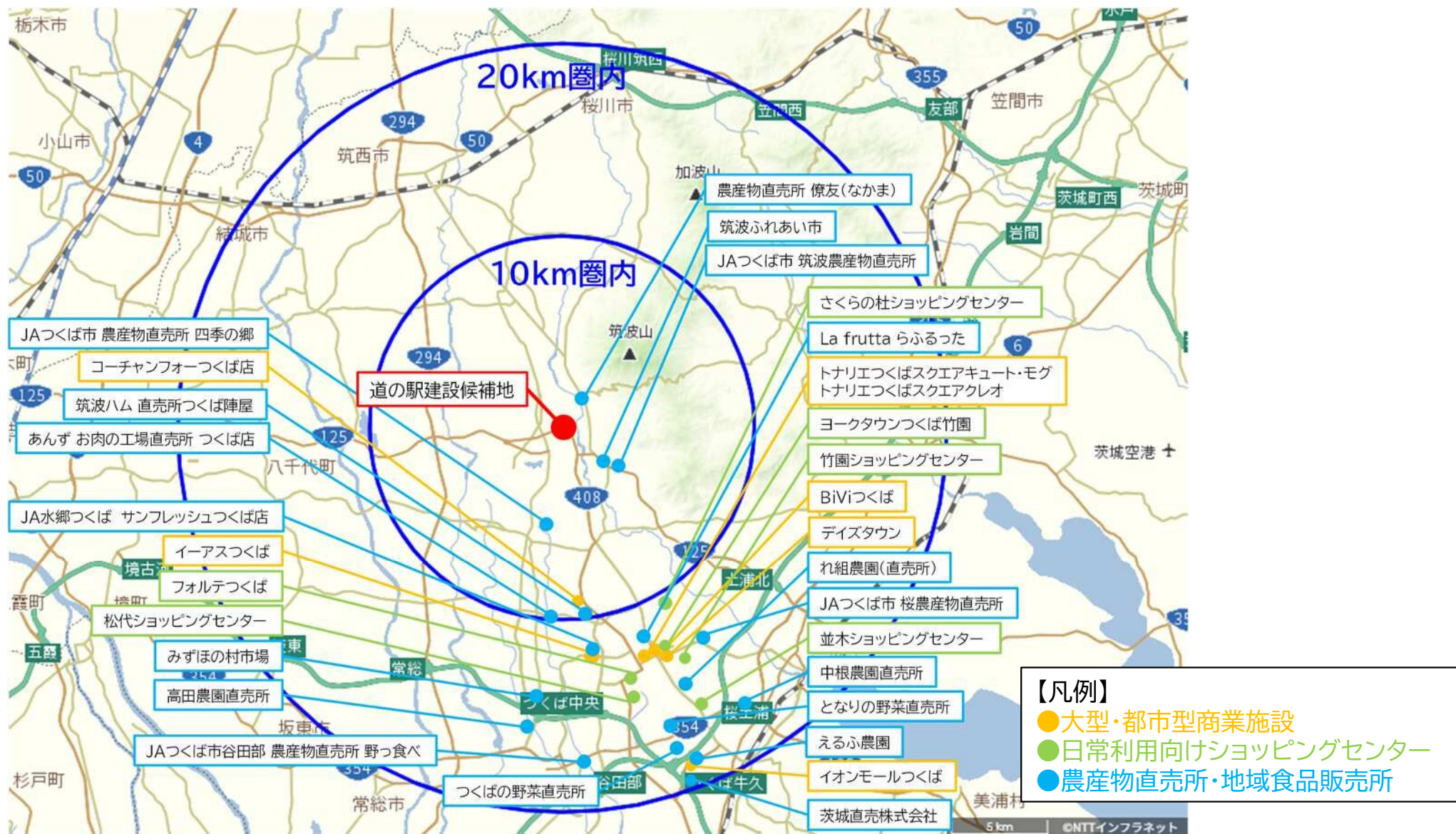
	道の駅しもつま	道の駅グランテラス筑西	道の駅常総
施設規模	- 駐車場:125台	約47,709㎡ 駐車場:361台	約20,000㎡ 駐車場:170台
利用者数	723,044人(令和5年度) 出典:広報しもつま2024.10	1,153,059人(令和5年度) 出典:筑西市公式HP	2,946,836人(令和7年3月末時点) ※オープンからの総利用者数 出典:常総市公式HP
特徴	・国道294号沿いに位置し、豊かな農地と自然に囲まれ、展望台からは田園風景と筑波山を一望できる。 ・農産物や特産品の販売、食事処、ベーカリーを楽しめるほか、納豆工場も併設。	・関東最大級の広さを誇る複合型「ハイブリッド道の駅」として3世代で楽しめる施設。 ・BBQ施設やドッグラン、カフェ、直売所、キッズスペースなども充実。	・「食のテーマパーク」と称されるほど、地元の新鮮な農産物や特産品、飲食施設が豊富。 ・TSUTAYA BOOKSTOREや空中いちご園、キッズスペース、巨大すべり台等があり、1日中楽しめる複合施設。
外観	 提供:道の駅しもつま	 画像出典:事務局撮影	 画像出典:事務局撮影

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

❖ 2. つくば市道の駅候補地の立地特性と周辺環境

④周辺商業施設： つくば市内には多数の商業施設や直売所が存在します。



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

全国道の駅のランキング※上位の道の駅の導入機能の取り組みを紹介します。

※ランキングは、利用者目線の「じゃらん 道の駅満足度ランキング(2023～2025年)」および
専門家目線「田舎暮らしの本道の駅大賞(2025～2026年)」の公表結果をもとに整理したもの。

番号	道の駅名	市町村名	じゃらん2023	じゃらん2024	じゃらん2025	道の駅大賞2025	道の駅大賞2026
1	ぐるっとパノラマ美幌峠	北海道美幌町				6	
2	花ロードえにわ	北海道恵庭市		4			
3	おとふけ なつぞらのふる里	北海道音更町					4
4	サーモンパーク千歳	北海道千歳市				7	
5	なないろ・ななえ	北海道七飯町		6			
6	道の駅 しちのへ	青森県七戸町	4	7			
7	雫石あねっこ	岩手県雫石町			10		
8	遠野 風の丘	岩手県遠野市		5	4		
9	あ・ら・伊達な道の駅	宮城県大崎市	2	1	5		
10	上品の郷	宮城県石巻市	8		7		
11	米沢	山形県米沢市	5	3			
12	川場田園プラザ	群馬県川場村	1	2	1	4	
13	道の駅 まえばし赤城	群馬県前橋市				1	1
14	保田小学校	千葉県鋸南町	10	9		5	2
15	とみうら枇杷倶楽部	千葉県南房総市	7				
16	国上(SORAIRO国上)	新潟県燕市				10	3
17	KOKOくろべ	富山県黒部市				8	
18	富士川楽座	静岡県富士市	3		6		5
19	伊東マリンタウン	静岡県伊東市	9	8	8	9	
20	神戸フルーツ・フラワーパーク大沢	兵庫県神戸市				2	10
21	西条のん太の酒蔵	広島県東広島市					8
22	センザキッチン	山口県長門市			9	3	6
23	道の駅 むなかた	福岡県宗像市	6	10	2		7
24	都城NiQLL	宮崎県都城市					9
25	道の駅 許田	沖縄県名護市			3		

※数字は、その年のランキング(順位)を示す。

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

①道の駅の導入機能の整理(分類)

A基本機能(ベース機能):どの道の駅にも共通する基盤(最低限必要な「立ち寄る理由」)

⇒直売所、物産店、レストラン、情報発信、トイレ等

B利便・滞在機能(付加機能):利用の幅を広げ滞在機会を生む(「立ち寄り」+「もう少し過ごす」を生む)

⇒ベーカリー、鮮魚店、コンビニ、温浴施設、ドッグラン、屋内遊び場等

C特色・集客機能(コンセプト機能):その道の駅ならではの強み・目的来訪を生む(「ここに行きたい」という動機をつくる)

⇒地ビール工房、納豆工場、バナナ農場、いちごハウス、遊覧船、プラネタリウム等

□ランキング上位の道の駅の導入機能一覧:多くの道の駅で基本機能に加え、付加機能を組み合わせている

連番	道の駅名	レストラン				物販					レジャー					体験					子供関連						情報発信・防災・宿泊等							
		レスト ラン	フード コート	ベー カー リー	その他	直売 所	物産 店	鮮魚 店	コンビ ニ	アウト ドア ショッ プ	その他	温浴	BBQ	ドッグ ラン	展望	その他	会議室	調理室	体験 農場	レン タサイ クル	その他	屋内 遊び 場	屋外 遊び 場	水 遊び 場	キッズ スペース	託児所	その他	ホテル	キャン プ場	防災 施設	観光 案内 所	交通 結節	その他	
	1ぐるっとパノラマ美幌峠	●					●							●																		●		
	2花ロードえにわ	●		●		●	●																									●		
	3おとふけ なつぞらのふる里	●	●	●	お菓子工場直営店隣接	●	●								NHK「なつぞら」展示	●						●	●		●					●	●		パークアンドライド駐車場	
	4サーモンパーク千歳	●	●			●	●		●													●			●					●				
	5なないろ・ななえ	●				●	●											●					●		●						●			
	6道の駅 ちのへ					●	●			花き・展示					美術館 他	●					山車展示館									●				
	7雫石あねっこ	●				●	●				●								●		日本ハーブ園													
	8遠野 風の丘		●			●	●																						●					
	9あ・ら・伊達な道の駅	●				●	●																								●			
	10上品の郷		●			●	●		●			●																			●			
	11米沢	●	●		米沢牛	●	●							●																	●			
	12川場田園プラザ	●		●	地ビール工房等	●	●				○								●	●	ろくろ体験		●				ハネッタ							
	13道の駅 まえばし赤城	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●		バナナ農場	●	●		●		ふわふわドーム				●			
	14保田小学校	●				●	●				●																	●						
	15とみうら枇杷倶楽部	●				●	●												●		いちご													
	16国上(SORAIRO国上)	●	●			●	●																							●	●	●	パークアンドライド	
	17KOKOくろべ	●				●	●																●	●	●					●	●			
	18富士川楽座	●	●				●	●						●	プラネタリウム	●				●	展示・ギャラリー	●									●			
	19伊東マリンタウン	●					●				●				遊覧船																●			
	20神戸フルーツ・フラワーパーク大沢	●				●	●				●	●	●		遊園地					果樹園								●						
	21西条のん太の酒蔵	●	●			●							●		コインシャワー	●						●	●							●				
	22センザキッチン	●		●		●	●					●																				●		
	23道の駅 むなかた	●	●			●	●	●														●	●				おもちゃ美術館							
	24都城NiQLL	●				●	●										●	●			燻製室	●												
	25道の駅 許田	●	●			●	●						●																					

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

②参考事例

A基本機能(ベース機能):どの道の駅にも共通する基盤(最低限必要な「立ち寄る理由」)

⇒直売所、物産店、レストラン、情報発信、トイレ等

□直売所



事例：道の駅むなとか

事務局撮影

※売り場面積の約3分の1が水産物コーナー
本日の入荷状況を毎日HPへ掲載

□情報発信（総合観光案内所）



事例：道の駅米沢

出典：道の駅米沢HP

※米沢市内・山形県内の情報発信基地として
観光コンシェルジュを配置
※道路雪情報などをモニターで24時間表示

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

②参考事例

B利便・滞在機能(付加機能):利用の幅を広げ滞在機会を生む(「立ち寄り」+「もう少し過ごす」を生む)
⇒ベーカリー、鮮魚店、コンビニ、温浴施設、ドッグラン、屋内遊び場等

□ベーカリー



事例：道の駅川場田園プラザ

事務局撮影

※川場の良質な素材から作るやさしい味が自慢。

川場産のお米やブルーベリー等を使ったパンも人気。

□ドッグラン



事例：道の駅まえばし赤城

事務局撮影

※道の駅まえばし赤城にあるドッグランは、約2,500㎡の広さ。

赤城山や榛名山が見える広場で、愛犬がのびのびと遊べる施設。

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

②参考事例

C特色・集客機能(コンセプト機能):その道の駅ならではの強み・目的来訪を生む(「ここに行きたい」という動機をつくる)
⇒地ビール工房、納豆工場、バナナ農場、いちごハウス、遊覧船、プラネタリウム等

□プラネタリウム



事例：道の駅富士川楽座

出典：道の駅富士川楽座HP

※本格的なプラネタリウムを体感できる
※宇宙をより身近に感じてもらえるよう
「ぷらっとプラネ」をテーマ

□遊覧船



事例：道の駅伊東マリンタウン 提供：道の駅伊東マリンタウン

※伊東の海を満喫するクルージング。
船内から海中を泳ぐきれいな魚を観察可能。
カモメの餌付けも楽しい！

3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

②参考事例

道の駅以外の事例も参考に紹介
(第1回検討委員会で紹介した事例)

<VISONにある導入機能(施設)>

- ・飲食機能
- ・BBQ場(松坂牛、伊勢海老等)
- ・ミュージアム(料理の道具)
- ・宿泊施設
- ・温浴施設(薬草)
- ・屋内遊び場(木育) 等



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

◆3.他地域の道の駅等の取り組み(参考事例)

②参考事例

道の駅以外の事例も参考に紹介(第1回検討委員会で紹介した事例)

<魚沼の里にある導入機能(施設)>

・飲食機能(社員食堂、菓子処、蕎麦屋等)、体験施設(蒸溜所、雪室、資料館等)、販売施設(リカーショップ等)



3 議 事

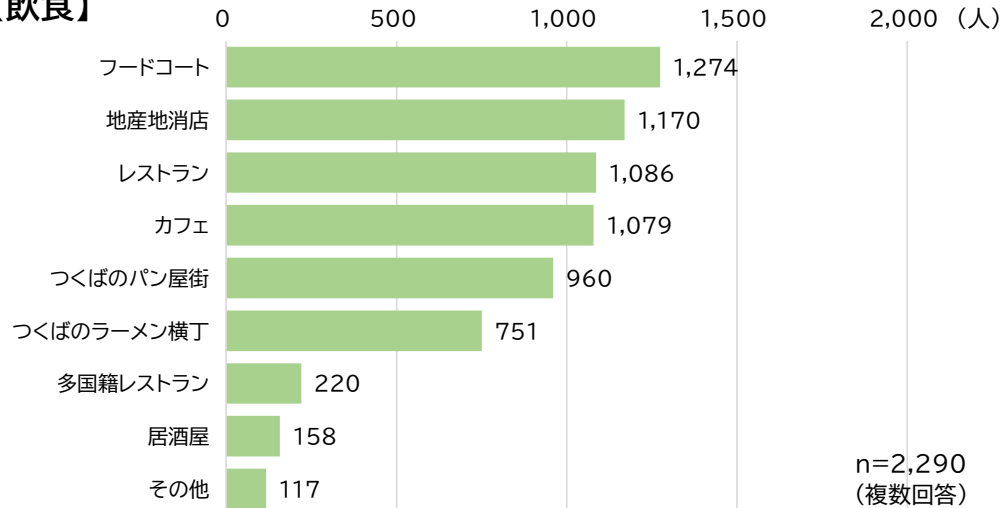
(2) 導入機能に関する意見交換

◆4.利用者ニーズと事前委員意見

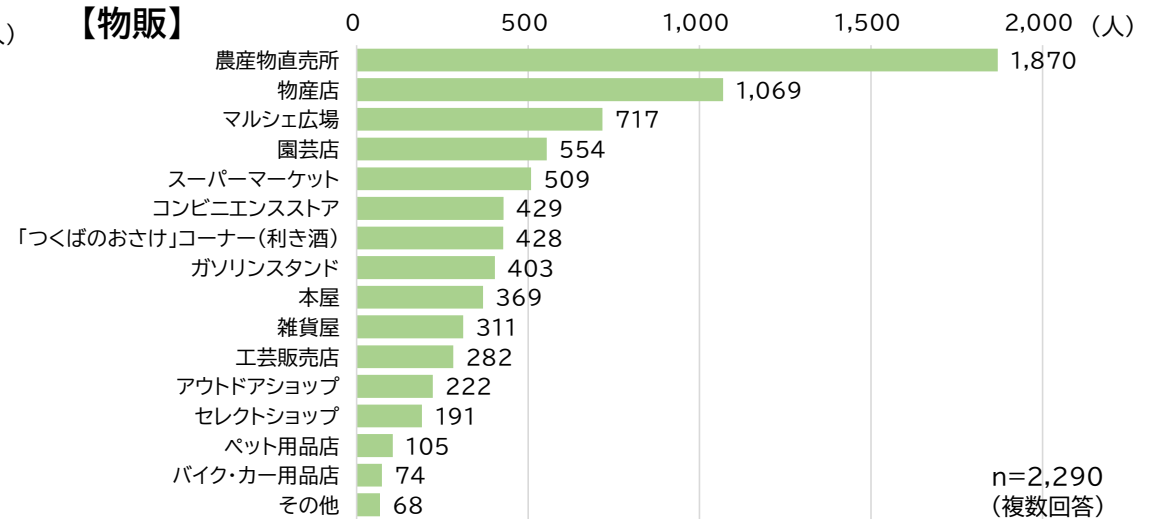
①利用者ニーズ調査の結果

道の駅に導入してほしい施設について、分野別にみると、「食」ではフードコートや地産地消店、「物販」では農産物直売所や物産店、「レジャー」では温浴や足湯、「イベント・交流・体験」ではイベントスペースや多目的ルームといった回答が多かった。

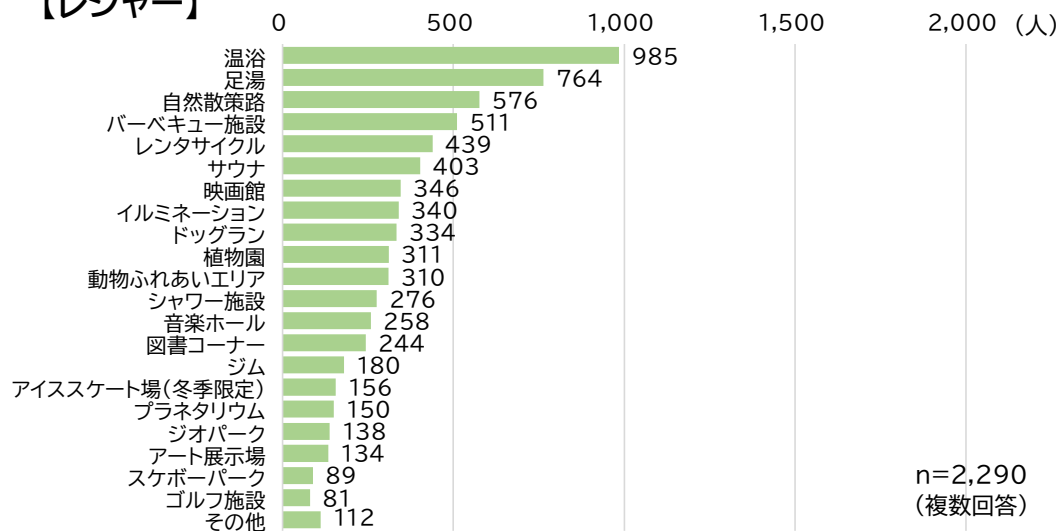
【飲食】



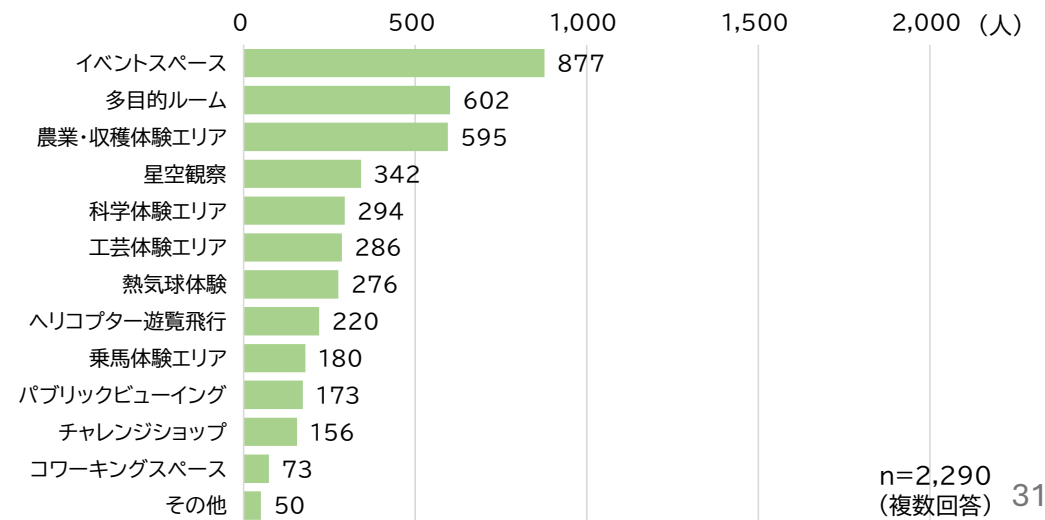
【物販】



【レジャー】



【イベント・交流・体験】



3 議 事

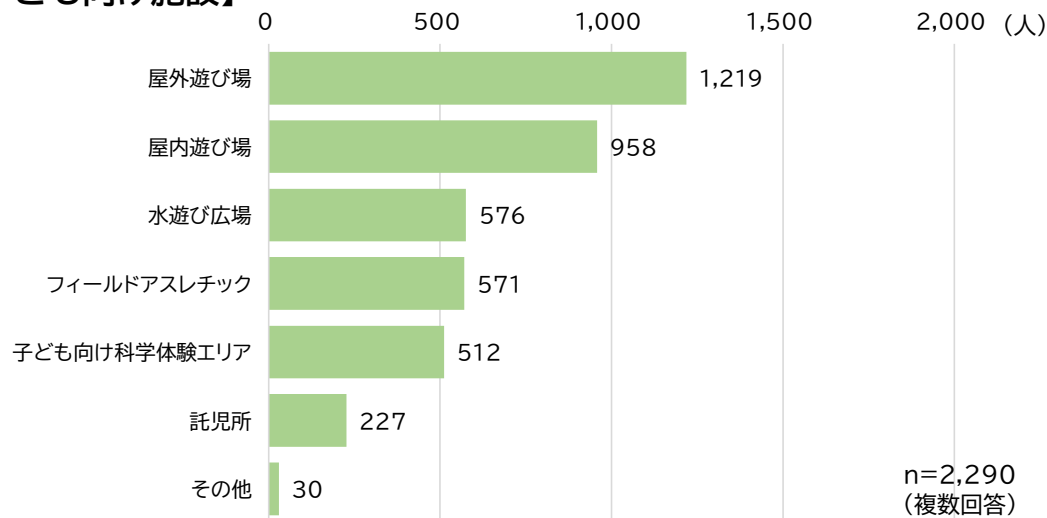
(2) 導入機能に関する意見交換

◆4.利用者ニーズと事前委員意見

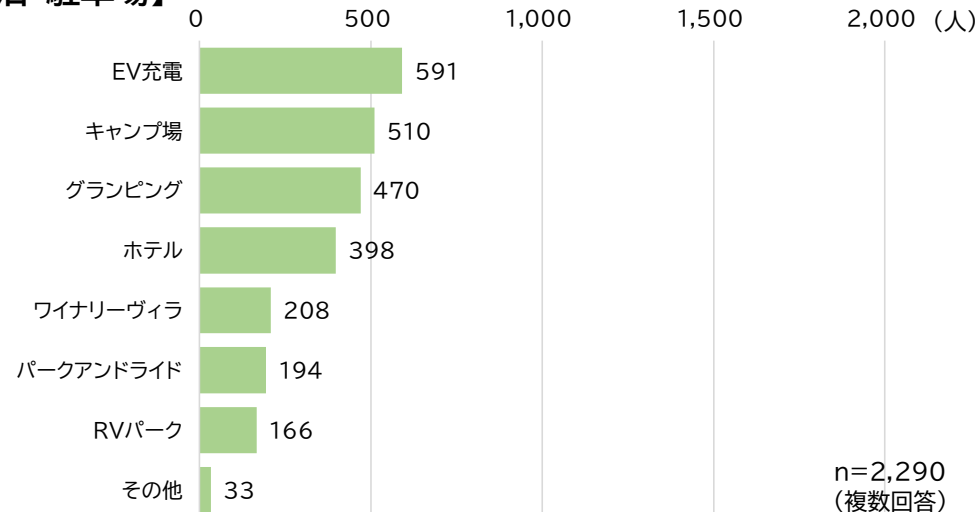
①利用者ニーズ調査の結果

道の駅に導入してほしい施設について、分野別にみると、「子ども向け施設」では屋外遊び場や屋内遊び場、「宿泊・駐車場」ではEV充電やキャンプ場、「防犯・防災・情報発信」では避難所や交番(派出所)といった回答が多かった。

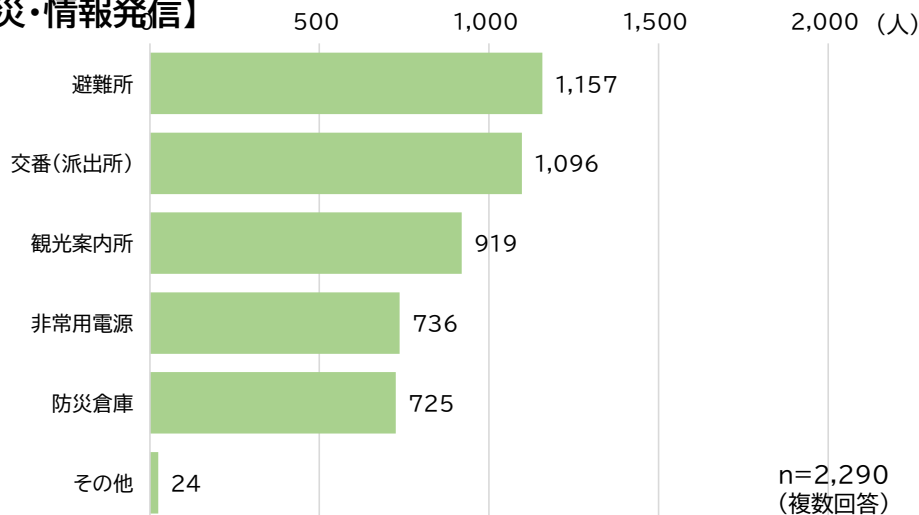
【子ども向け施設】



【宿泊・駐車場】



【防犯・防災・情報発信】



3 議 事

(2) 導入機能に関する意見交換

❖5. 導入機能に関する意見交換

役割	基本目標	導入機能イメージ(目的、効果、ターゲット層も踏まえて。)
観光	『つくば観光の玄関口・交流拠点としての機能を強化する』	例:観光情報発信のための地域情報の集約・案内ができる観光案内所 例:筑波山観光の混雑解消のためのパークアンドライドの仕組ができる広い駐車場
食農	『食と農の魅力を発信し、地域農業を振興する』	例:地域農業の振興のために地元農産物の販売・PRが効果的に可能な直売所 例:地元生産者の所得向上のため直売所に加えた新たな販路としての野菜加工場
自然・科学	『自然と科学が共存する研究学園都市としてのブランド力を高める』	
教育・文化	『多世代の学びと文化の継承・発展を支える』	
日常利用	『暮らしを支え、つくば市への愛着を育む』	

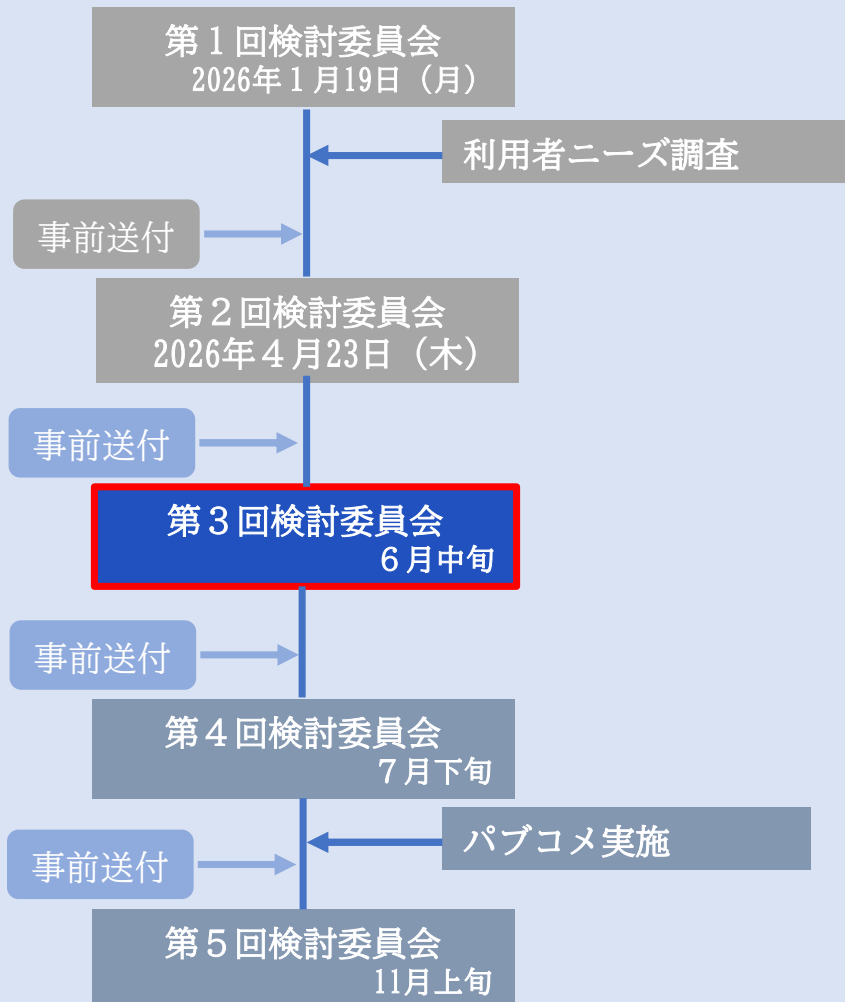
3 議 事

(3) 今後の進め方

❖第3回検討委員会

次回の内容は、導入機能・施設の検討、管理運営手法、概略事業スケジュール等を想定しています。

□基本構想の検討フロー案



□基本構想を検討委員会で示す時期案

検討委員会で示す時期案	基本構想の目次構成案
第1回	1. これまでの検討経緯と整備目的
	2. 計画対象地の位置・概要
第1回 第2回	3. 現状課題・ニーズ
	4. 基本理念・基本目標の設定
第2回 第3回	5. 導入機能・施設の検討
第3回	6. 道の駅整備及び管理運営手法の検討
	7. 概略事業スケジュール

4 その他

5 閉 会